

特集

教育学者 清水一彦さんと考える 日本の教育 (2)

目次

- グラビア …… 01 ~ 02
- 年頭挨拶 筑波大学長 永田恭介 …… 03
- 謹賀新年 平成 27 年 ことしもよろしく お願いいたします …… 04 ~ 05
- 年頭挨拶 茗溪会理事長 江田昌佑 …… 06
- 新しい年を迎えて 理事長 江田昌佑 …… 06 ~ 07
- 副理事長 西川 潔 …… 07
- 副理事長 井口武雄 …… 08
- 教育学者 清水一彦さんと考える 日本の教育 (第 2 回)
大学入試試験制度はどう改革すべきか …… 09 ~ 15
- 茗溪会 公開講座
藤原教授の英語のはなし 第 10 弾「英語をさかのぼる」藤原保明 …… 16
- 茗溪会 公開講座「年始年末に楽しむ 冬の寄せ植え」西川綾子 …… 17
- 茗溪・東西南北 …… 18 ~ 19 ■ 追悼録 …… 19
- 第 13 回 茗溪会の顕彰 《茗溪会賞》 …… 20
- 筑波大学は今 …… 21 ■ 茗溪学園だより …… 22
- 桐の葉のつどい …… 23
- 平成 26 年秋の叙勲 おめでとうございます …… 24
- 著書紹介 …… 24 ■ 広報 …… 25 ■ 編集後記 …… 25

茗溪



正月

2015

平成27年

no.1084



冬のケヤキ並木

Juchheim
SEIT 1909

日本のバウムクーヘンの歴史は
ユーハイムから始まりました。



まっすぐなおしさ

日本で初めてバウムクーヘンが焼かれたのは1919年(大正8年)のこと。
創始者カール・ユーハイムの焼きあげたバウムクーヘンへの想いは
今も変わらず、職人から職人に受け継がれています。

ユーハイム®

www.juchheim.co.jp/juchheim
〒650-0046 神戸市中央区港島中町7-7-4

お客様係 TEL 0120-860816

受付時間：平日(月～金) 9:30～17:00(年末年始を除く)
携帯電話・PHSからはご利用いただけません。

食の提供 (アウトソーシング)

社員食堂 / 寮・研修所・保養所・研究施設 /
学生食堂 / レジャーレストラン / カフェ

お仕事に、勉強にがんばる皆様を食事面からサポートいたします。
空間づくりなども含めた委託運営を行っています。



学生食堂

～学校ブランドを高める空間づくり～

学生の皆様にとって、大切な思い出の一つになる学生食堂。
学校それぞれの教育方針に沿って運営を行いながらも、
学生層に合わせ、トレンドを意識したメニューをご用意。
カジュアルさとおしやすさで好評をいただいています。
また、売店の運営やスクールバスの運行など、トータルでの
サポートも可能です。

寮・研修所・保養所・研究施設

～やすらぎと栄養バランスを考えた食事提供～

各施設の運営方針やご利用者の年齢層に応じたメニューを
提供。栄養バランスを考慮した食事を提供するだけでなく、
研修施設では研修期間や日程などの利用状況に対応した運営を
心がけ、「食」を通じて家庭にいるような安らぎを提供すること
を目指しています。食事以外にも、施設管理全般にわたる管理
業務も行っていきます。



はぐくむ、大切なことのすべて

SHIDAX

シダックスフードサービス株式会社

シダックスグループ営業開発本部

〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-12-13 渋谷シダックスビル3F
TEL.03-5784-8853 (代表) FAX.03-5784-8842

KAIT

力と自信がつく教育で
「考え、行動する人材」を育成します。

〈4つのスーパーサイエンス特別専攻〉

- 環境エネルギー ■ 医生命科学
- ICTスペシャリスト ■ 次世代自動車開発

2014年度
4月新設

科学的センスとクリエイティブな実践力を身につけた
理数系教員を養成する

STC サイエンス・ティーチャー
SCIENCE TEACHER COURSE 養成コース



神奈川工科大学

KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030

TEL.046-291-3002 URL:http://www.kait.jp/

理事長 中部 謙一郎

理事 河野 隆二(S47農)

顧問 清水 進一(S43理数) (神奈川茗溪会 会長)

監査室 矢野 正人(S53院修農) (同 事務局長)

工学部

機械工学科(航空宇宙専攻含む)
電気電子情報工学科
応用化学科

創造工学部

自動車システム開発工学科
ロボット・メカトロニクス学科
ホームエレクトロニクス開発学科

応用バイオ科学部

応用バイオ科学科
栄養生命科学科
[管理栄養士養成課程]

情報学部

情報工学科
情報ネットワーク・コミュニケーション学科
情報メディア学科

第13回

茗溪会賞顕彰式

筑波大学において

平成26年11月26日

(P.20 参照)



「年末年始に楽しむ冬の寄せ植え」
講師 水戸植物公園長 西川綾子氏
(P.17 参照)

公開講座



「英語をさかのぼる」
講師 藤原保明氏 (P.16 参照)

男子バスケットボール部念願のインカレ優勝 (P.21 参照)



写真提供：O. TAKEDA

全日本剣道選手権で竹ノ内祐也選手
史上最年少優勝
(P.21 参照)



茗溪会賞(社会貢献活動功労者) 第13回顕彰式 (P.20 参照)



被災地を訪れ仮設住宅の窓拭き
栃木県 作新学院



高校生によるラオス学校建設への協力、支援活動
高知市立高知商業高等学校生徒会
(代表生徒 細木優夏 野村昌代)



ご当地紙芝居で心の復興後押し
神奈川県 中谷奈津子



「地あぶら」で地域の潤滑油になれば
茨城県 NPO 法人「バイオリフ」
(代表 塩川富士夫)



木製義足を作り続ける職人
東京都 菊池 豊



音楽を通じた日本と
モンゴルの交流拡大をめざして
東京都 阿部 渚



おばあちゃんの家から広がる人の縁
茨城県 NPO 法人「華の幹」(代表 飯塚洋子)



言葉の橋渡し 心を添えて
神奈川県 問屋正勝



地域での一人暮らしの方や
お年寄りの見守り活動
東京都 藤原啓乃



筑波大学生の力を生かした地域密着型復興支援
茨城県 T-ACT 企画「Tsukuba for 3.11」
(代表学生 福井俊介 霜鳥太一)



子供達に生きた科学を
茨城県 芳賀和夫

(順不同 敬称略)

年頭挨拶



筑波大学長

永田 恭介

明けましておめでとうございます。

茗溪会の皆様には、何時に変わらず旧年中も様々なご支援をいただきましたこと、改めて感謝を申し上げます。

激動する社会の中では、一昨年の10月に行った開学40周年の祝賀会からも随分と時間が過ぎたという思いになります。筑波大学は、日々、世界の知のフロントランナーとして知的基盤社会を先導するさまざまな改革に挑戦しているところです。ご承知のように、本学は、あらゆる面で「開かれた大学」となることを目指し、従来の觀念に捉われない「柔軟な教育研究組織」と次代の求める「新しい大学の仕組み」を率先して実現することを基本理念として創立され、文字どおり、これまで我が国における大学改革を先導してきました。その結果、時間はかかりましたが、改革を続けてきた数多くのシステムやプログラムが他の大学にも浸透してきました。

私事ですが、このたびの学長選考において次期学長を託されることになりました。大学を取り巻く状況は年々

厳しさを増しており、また我々はこれまでの先人たちが経験したことのない課題を抱えた時代を迎えています。直面する困難な課題、予測困難な事象にさらされている時代に対応し、未来への活路を切り拓く原動力となるのは知の創造と次代を担う人材の育成であり、これらこそ今まさに大学に期待されているところであると認識しています。今回の学長選においては、具体的な施策というよりもむしろそれを支える哲学、あるいは基本理念というものを専ら訴えてきました。重要なキーワードは、「学問の自由」と「コンピテンシー」のこの2つです。

学問は人類の知的財産を創造し、蓄積し、活用させます。大学は学問を行う場所です。高い専門性を付与できる教育のためにも高い研究力が必要です。研究を進めるにあたって、最も重要なことは研究者個々のモチベーションとオリジナリティーであり、大学の役目はそれらが発揮される環境を描えることです。研究者は、自由な発想に基づいた真摯で公平な最善の努力に務め、最初の、あるいは唯一つの発見や創造に向かって邁進すべきだと考えています。大学はそのような研究者を守らなければなりません。一方で、価値観が多様化し、混乱する社会においては、高い専門力だけではなく、職業生活を含めた社会的自立に必要な能力を身につけさせる教育方法が求められています。敢えてビジネス用語を用いれば、コンピテンシーという概念にあたると考えられます。言い換えれば、予測困難な時代をより良く生きるための人間像、より良い社会の形成のための社会像、およびそれらを実現し、維持し、向上させるために求められる基礎能力、すなわちコンピテンシーを涵養する教育システムを充実させていく必要があります。

昨年の秋口には、海外の卓越した大学との連携や大学改革により、徹底した国際化を進める世界レベルの教育研究を行う13のトップ大学の一つとして、筑波大学はスパーグローバル大学としての支援を国から受けることが決まりました。その中の中心的な取組みは、Campus-in-Campusという新しいシステムの運用です。このシステムでは、本学の学生は本学をキャンパスとするだけで

はなく、パートナー大学のキャンパスを本学のキャンパスのように使うことができますし、パートナー大学の学生についてもその逆が可能になります。パートナー大学の授業科目が本学の科目便覧に掲載され、本学の授業科目がパートナー大学の科目便覧に掲載されますから、学生はあたかも自身のキャンパスが相手大学キャンパスにまで拡張した感覚になります。研究推進の観点からも同様なことが可能となり、本学の研究室がパートナー大学で運営されたり、本学の教職員がパートナー大学のキャンパスで働くといったことが始まります。教職員の雇用についても両方の大学から雇用費を支出することもでき、実際、すでにそういった教員も出現しています。申請書には、この他にもいろいろと書き込みましたが、考え方の基本は「国境や機関の壁を越えて、すべての学生・教員・職員に武者修行に挑戦して欲しい、そのために世界中の資源を積極的に活用した教育研究を実施したい」ということです。すなわち、トランスボーダーな教育研究が日常化したトランスボーダー大学に向かって進んで行くこうという宣言を行ったということです。142年前に開学した師範学校からの歴史にも、トランスボーダー大学に至る基本的な精神は顕然としていました。

筑波大学は今伸び盛りです。本学の今後の発展と挑戦には、教職員、学生はもとより、本学およびその礎を築かれた前身校で働かれ、あるいは学ばれた方々との協働が重要です。2年前には在学生や教職員らも含めて本学関係者と大学との交流を促進し、相互支援、情報の共有化を図るための交流の場として「筑波大学校友会」を結成しました。私の知る限り、これまで縦の繋がりととして12の同窓会が立ち上がっていますが、それらの横のつながりを広げ、横断的かつ機能的な交流の推進が重要だと考えています。

今年も、「学生の視点」、「グローバルの視点」、「未来の視点」から世界を先導する大学として、全力を尽くして参ります。皆様方のご支援、ご鞭撻をお願いするところです。本年もどうぞよろしく願いいたします。

今年もよろしく お願いいたします

一般社団法人
茗 溪 会



一般社団法人 茗溪会 理事長 江 田 昌 佑 (昭和30年卒教大体) 〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 TEL 03-3491-0136	一般社団法人 茗溪会 副理事長 井 口 武 雄 (昭和40年卒東京教育大学法政) 三井住友海上火災保険㈱ 〒101-8011 東京都千代田区神田駿河台3-9 TEL 03-3259-3111	一般社団法人 茗溪会 副理事長 西 川 潔 筑波大学名誉教授・博士(デザイン学) (昭和44年教大構成 昭和46年院修美) 〒305-0031 つくば市吾妻3-1-1-109 e-mail:q.nishikawa@gmail.com
一般社団法人 茗溪会 理事 国立大学法人筑波大学 副学長・理事(教育担当) 教育学博士 阿 江 通 良 (昭和48年教大体育) 〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1 TEL 029-853-2010 FAX 029-853-6310 E-mail:ae@taiiku.tsukuba.ac.jp	一般社団法人 茗溪会 理事 筑波大学数理 物質系教授 化学専攻長 研究基盤 総合センター長 新 井 達 郎 (昭和56年博士課程化学研究科修了) TEL 029-853-4315 arai@chem.tsukuba.ac.jp	一般社団法人 茗溪会 理事 う ざわ つとむ 鵜 沢 力 (昭和63年卒筑波大学社会学類) 三井住友銀行 名古屋ローン推進部長 tmuzawa@i.softbank.jp
一般社団法人 茗溪会 理事 大 勝 信 明 (昭和26年卒文四) 墨林書道院特別顧問 東京親鸞会 副会長	一般社団法人 茗溪会 理事 川 田 孝 一 (昭和39年卒教大総農科) 〒194-0045 町田市南成瀬5-29-6 TEL 042-728-5428 連絡先 桜美林大学入試広報センター 相談役 TEL 042-797-6196	一般社団法人 茗溪会 理事 株式会社 ユーハイム 代表取締役 社長 河 本 武 (昭和37年卒体育学部健康学科) 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6-2-9
一般社団法人 茗溪会 理事 神 林 喬 (昭和40年教大教育学科卒) 〒225-0023 横浜市青葉区大場町360-51	一般社団法人 茗溪会 理事 五 味 田 優 (昭和47年卒教大文学部国語国文学) 〒310-0911 茨城県水戸市見和1-377-16 TEL 029-221-9603	一般社団法人 茗溪会 理事 筑波大学 生命環境系教授 教育企画室長 佐 藤 忍 (昭和60年筑波大博士課程生物) TEL 029-853-4672 email:satoh.shinobu.ga@u.tsukuba.ac.jp
一般社団法人 茗溪会 理事 福岡経営労務事務所 所長 社会保険労務士 福 岡 一 雄 (昭和32年卒教大法政) 〒125-0042 東京都葛飾区金町3-27-3 TEL 047-361-2618 FAX 047-361-2643	一般社団法人 茗溪会 理事 筑波大学キャリア支援室長 教 授 守 屋 正 彦 (昭和51年教大芸卒 昭和53年教大院修美) 〒305-0005 つくば市天久保4-5-4 TEL 0298-50-3901	飯塚公認会計士・税理士事務所 公認会計士・飯 塚 良 成 税理士 (茗溪会監事) (事務所) 〒227-0054 横浜市青葉区しらとり台14-7 TEL 045-988-0846 FAX 045-988-0847 mail:nqf46967@nifty.com
一般社団法人 茗溪会 理事 茗溪学園 理事長 西 野 虎之介 (昭和28年卒教大農経科) (自宅) 〒312-0062 茨城県ひたちなか市高場92 TEL 029-285-7786	一般社団法人 茗溪会 理事 茗溪学園中学校高等学校 校 長 柴 田 淳 (昭和52年教体卒 昭和56年筑修体) 〒305-8502 つくば市稲荷前1-1 TEL 029-851-6611	学校法人 茗溪学園 理事 大 藪 元 史 〒164-0002 東京都中野区上高田1-31-4



謹賀新年 平成27年

茗溪会筑波大学支部 支部長 森 嶋 厚 行 (平成10年筑大院・博士課程修了) 支部役員・会員一同 (事務局) 〒305-8577 つくば市天王台1-1-1 茗溪会筑波事務所内 TEL 029-850-1044		茗溪会千葉支部(公立高等学校校長) 千葉県立幕張総合高等学校 校長 大久保利宏 (昭52年卒教大健) 千葉県立匝瑳高等学校 校長 布留川 厚 (昭52年卒教大物) 千葉県立柏井高等学校 校長 内藤 秀子 (昭53年卒筑体) 千葉県立土気高等学校 校長 網代 伸 (昭53年卒筑体) 千葉県立沼南高等学校 校長 蛭名 一則 (昭53年卒筑体) 千葉県立大網高等学校 校長 根本 進 (昭54年卒筑二農) 千葉県立成東高等学校 校長 猿渡 末治 (昭55年卒筑一自) 千葉県立鎌ヶ谷西高等学校 校長 畑 順子 (昭54年卒筑芸) 千葉県立若松高等学校 校長 佐藤 宰 (昭57年卒筑二人間) 千葉県立勝浦若潮高等学校 校長 石塚 和美 (昭57年卒筑二比文) 千葉県立稲毛高等学校・附属中学校 校長 山本 昭裕 (昭55年卒筑体) 習志野市立習志野高等学校 校長 由利 聡 (昭55年卒筑体) 銚子市立銚子高等学校 校長 長谷川 茂 (昭55年卒筑一自) 船橋市立船橋高等学校 校長 山崎 成夫 (昭56年卒筑体)	
茗溪会千葉支部 支部長 秋 山 尚 功 (昭和38年卒教大東洋史) 〒286-0021 千葉県成田市土屋892-79 TEL 0476-24-4425		神奈川茗溪会有志一同 神奈川県教育委員会教育局指導部長 大畑多津雄 (昭和52年卒教大数学) 神奈川県立体育センター事業部長 大石 進 (昭和56年卒筑大体育) 神奈川県立相模原中等教育学校校長 加賀 大学 (昭和51年卒教大日史) 神奈川県立吉田島総合高等学校校長 掛原 豊 (昭和54年卒筑大第二農林) 神奈川県立座間総合高等学校校長 加藤 充洋 (昭和56年卒筑大第一社会) 神奈川県立松陽高等学校校長 佐藤 到 (昭和57年卒筑大第三社会工) 神奈川県立相模原青陵高等学校校長 佐藤 教道 (昭和56年卒筑大第一人文) 神奈川県立舞岡高等学校校長 瀬木 明 (昭和52年卒教大応数) 神奈川県立百合丘高等学校校長 玉井 正史 (昭和56年卒筑大第一人文) 神奈川県立金井高等学校校長 林 忠 (昭和58年卒筑大第一自然) 神奈川県立山北高等学校校長 三橋 史朗 (昭和54年卒筑大第一自然)	
京都茗溪会 会 長 塩 見 均 (昭和47年卒東京教育大学数学科) (会長連絡先) 〒612-0004 京都市伏見区深草西川原町36-1 コトーハイツ伏見稲荷A-127 事務局 長 川 合 英 之 (昭和56年卒筑波大学体育専門学群)		一般社団法人 茗溪会 代議員 東京都茗溪会 幹事 中 村 穎 司 (昭和35年卒文学部国文科) 〒343-0825 越谷市大成町2-331-1 TEL 048-988-0338	
大阪茗溪会 会 長 松本 秀範 (昭和53年 修士林卒) 森ノ宮医療大学 広報室参事・特認教授 〒559-8611 大阪市住之江区南港北1-26-16 理事長 岡村多加志 (昭和55年 筑一群自然卒) 大阪府立久米田高等学校 校長 〒596-0802 大阪府岸和田市額原町1100		神奈川茗溪会 会 長 清 水 進 一 (昭和43年卒 教大数) 事務局 長 矢 野 正 人 (昭和53年卒 修院農) (会長自宅) 〒254-0075 神奈川県平塚市中原1-25-24 TEL 0463-31-3350	
奈良茗溪会 会 長 藤 善 尚 憲 (昭和31年卒教大体) (昭和33年卒教大教) 〒632-0094 奈良県天理市前裁町310-2 TEL・FAX 0743-63-0339		一般財団法人 筑波学都資金財団 理事長 田 中 正 造 (昭和36年卒 教大・健) 〒305-0005 つくば市天久保1-13-5 TEL 029-851-5152	
一般財団法人 筑波学都資金財団 副理事長 鶴 巻 勝 夫 (昭和35年卒 教大・数) 常務理事 高 野 大 二 郎 (昭和40年卒 教大・体) 〒305-0005 つくば市天久保1-13-5 TEL 029-851-5253		一般財団法人 筑波学都資金財団 理事 筑波大学学生宿舎管理事務所 所 長 武 井 秀 一 (昭和51年卒教大化学科) 〒305-0005 茨城県つくば市天久保二丁目1-1 平砂管理事務室 TEL 029-858-0131	

年頭挨拶



一般社団法人 茗溪会
理事長 江田 昌 佑

あけましておめでとうございます。
茗溪会会員五万余の皆さまには、新しい希望の新年を迎えられましたこと、慶賀の至りに存じます。
益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

新しい年を迎えて

一般社団法人茗溪会は、四年目を迎えました。
これまで母校・筑波大学の同窓会として各地域組織等及び大学を支援するため、各会員の方々がご理解とご協力をいただき、多くの事業を展開して参りました。

今回は、新しい年を茗溪会の新たな飛躍の年とするための抱負や具体的諸事業などの実施について、江田昌佑理事長、西川潔副理事長、井口武雄副理事長に話していただきました。

私どもの茗溪会は、一般社団法人茗溪会としてスタートして四年目を迎えました。

今年も、母校・筑波大学としての性格をこれまで以上に鮮明にさせる方向で公益事業や共益事業並びに広報事業を推進し、一段の充実を図りたいと存じております。

母校・筑波大学は、前身諸学校の百年を越える長い伝統に裏打ちされながら、「開かれた大学」としての新構想のもとで、既に四十一年の充実した年月を経過しました。いま大学は、前進する新たな姿として、「新構想大学」から「未来構想大学」としての更なる挑戦を重ねているとのことでございます。永田恭介学長は、「地球規模での課題の解決に向けた知の創造とこれを牽引するグローバル人材育成」をミッションとして掲げ、教育・研究活動の推進に全力を尽くすと言っておられます。

平成二十六年九月筑波大学は、文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業対象大学として承認されました。世界ランキングトップ100を目指す力のある筑波大

◆ 新法人のトップとして茗溪会を導いておられる江田理事長からは、本会が展開している現在の主な事業等についてお話してください。

(江田理事長)

茗溪会は、会員相互の絆を深め、お互いの協力や向上を目指す諸々の取り組みや母校の学生(大学院生を含む)のさまざまな活動などを助成・支援する事業は、次の三つの柱を軸として実施しています。

一 同窓会としての互助事業の充実

二 公益目的事業の充実

三 大学への支援の充実

① 円滑な事業展開をめざして

会費制度の改正、各地域組織等の活性化のための活動支援の改善や、世代を繋ぐ事業として「茗溪フェロー」の創設等を図って来ております。

② 季刊誌の発行、ホームページのリニューアルなど、

広報活動の推進

季刊誌の表紙も、斬新なデザインにして年4回の発

学を含めた十三大学を支援するというものです。

私たち同窓の者としては、それらの動きに対する期待と同時に、出来る限りの支援をして参らなければならぬと思う次第でございます。それだけに、私たち自身が推進しております「茗溪会拡充キャンペーン」を、手堅く継続していくことの必要性を、一層痛感するところであります。

特に、当会としての課題の第一点として、財政状況及び諸事業等の増収と節減を実行していかなければなりません。第二点は、地域組織等との連携を、いままです以上に緊密にし、ご協力をいただきながら、会員の掘り起こし、会費納入の促進等の諸問題の解決を図り、改めて同窓会の公益、共益事業等の充実に当たらなければならぬと存じます。

理事・監事をはじめ、全国の代議員や各組織(会長)の皆さまを始め、すべての会員の皆さま、関係する皆さまの一層のご理解ご協力のほどをお願い申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

行、特集を組んだり、各地域組織の活動や母校の様子などを紹介しています。また、ITを活用した会員との交流を図るためホームページをリニューアルしています。

③ 地域組織等への支援強化

会費納入に関する還元等の改善によって、各地域組織等の強化や自主活動に供するように図っています。さらに、各地域組織等が主催する公益的な公開講座等に支援しています。

④ 公開講座等の公益・共益事業の推進

公益事業として、公開講座を、東京地区とつくば地区において、年4回程度を継続して開催し、また、顕著な社会貢献活動等に係る顕彰事業は、一般社会人や筑波大学院生と芸術専門学群の学生・大学院生に「茗溪会賞」を差しあげています。

共益事業の一つとして「追悼のつどい」を毎年秋に行っています。

⑤ 母校への支援事業

ホームカミングデイや茗溪・筑波ランドフェステ

イバル等への助成、学生活動支援事業、就職ガイダンス支援事業などを行っています。

⑥ 茗溪会筑波事務所の事務機能の刷新・充実

茗溪会の現在の会員構成としては、筑波大学出身者が過半数を占めるようになったことを受けて、筑波事務所の事務機能の刷新・充実をいたしました。

◆ 次に、江田理事長として茗溪会の新たな飛躍を目指した抱負についてお聞かせください。

① 各地域組織等の体力を増大させ、地域組織等の会員の優れた知見をもとに、講演会・研修会などの交流の機会を計画して、会員のみならず、広く地域への貢献活動を可能にすることや近接地域組織等の交流や合同企画などを推進したいと願っています。

② 各都道府県出身の在学生と各地域組織等が連携した県人会を計画できないか。

③ 海外諸国では、多数の同窓が活躍しています。仕事等の関係で海外在住が久しい方がたや留学を終えた方がたが、情報交換を柱とした「茗溪のつどい」を設けることが望まれています。一部の地域ではすでに行われています。

④ 先達が、茗溪創基百年を記念して、茗溪学園を創設しました。いま、筑波大学が存在する筑波の地に同窓会館の建設の槌音が聞ける日の来ることを願ってやみません。

⑤ 永い歴史と伝統を誇る附属学校との交流推進を図って参りたい。

⑥ 新法人発足以来、諸課題の解決をはかるべく日夜努力を重ねております。「茗溪会拡充キャンペーン（ゴ・ィ・５・GO作戦）」活動に対し、全国の会員の皆様には多大なご協力とご支援をいただいています。心から感謝申し上げます。

平成二十六年三月、茗溪会館の事業を委託していた業者が急遽解散する事態が起きました。皆さまにもご心配・迷惑をおかけしていることと存じます。

現在、総力をあげてその解決のために、鋭意取り組んでいるところであります。



副理事長 西川 潔

◆ 西川 潔副理事長は大学と茗溪会を繋ぐ上で大きな活躍をされておられます。

大学と同窓会の両方をよく知っておられるお立場から、母校の現況や同窓会としての茗溪会の在り方についてお話してください。

① 総合大学として（西川副理事長）

筑波大学の初期から教員として今日まで関わってまいりましたから、客観視は難しいですね。東京教育大学で大学院まで終わってから、現在も教員（特命）をしているのは、おそらく私くらいではないでしょうか。私が感じていた教育大のカラーである「教員の教育熱心さや学生のまじめさ」はいまでも残っていると感じていますが、大学自体の在り方が大きく変わりました。いまでは、常にチャレンジするような積極性が求められ、総合大学として世界と競わなくてはなりません。教員には、厳しい時代だと思えます、学生はここ十年で留学、奨学金、就職、健康管理など、いろいろな厚いサポートが受けられるようになりました。

（国立大学法人化をめぐって）

四十年近い教員生活で、大学が変わった節目は2004年の法人化です。特に、法人化以降、自主裁量の拡大を期待しましたが、そうはなりません。研究費や場合によっては教育費も競争的にとらなくてはならなくなりました。

ご存知のように人員や予算は年を追うごとに厳しく

なっています。もちろん社会の要請もあつてのことですが、一部教員への過重負担、長期的展望の難しさ、デスクワークの増加等々、私も含めてどちらかと言えば職人的な芸術系の教員には厳しいものです。

ただ、その頃から国際交流も盛んに行われるようになり、それは良かったと思っています。外国の教員と話す機会も増えました。そんな時、研究費獲得や教育予算が話題になると、驚くほど似た状況にあることがわかり、国際的競争も意識せざるを得ない時期に来ていることを実感できました。

② そうした流れの中で、筑波大学は先導的に頑張ってきたことは間違いのないと思います。大学の国際化はここに来て急速に実現しつつありますし、特に理系大学としてのステータスは、大きく高まっています。

茗溪会の更なる発展に向けて
私は、副学長のときから茗溪会担当になり、本会の学生支援などに参加してきました。行事には出来るだけ出席するようにしていました。

ところで、同窓会は大学や学生を支援する使命を担っており、茗溪会はそれを恒常的に果たしてきたと思います。江田理事長が進める「茗溪会拡充キャンペーン」は、それを維持発展させるためです。

今後、必要なのは、「同窓会がやらねばならないこと」、また、「同窓会しか出来ないこと」を精査し、少人数で機動的に動けるようにすることだと思います。そろそろ抜本的に考え直す時期が来ていると思います。このことは、過去を誤っていたと見るものではありませんし、先輩への感謝の念に変わることはありません。

それにしても、各地域組織等の総会などに出席しますと、高齢の会員などの大学に寄せる思いの強さにはしばしば頭が下がります。茗溪会の知名度と積み上げてきた功績は揺るぎがなく、その名をさらに高めるためにも、新しい時代に相応しい、これからの在り方を、会員にも参加していただき真摯に考える時期が来ていると思います。私が選考委員長を務める顕彰事業等の展開は、その一つの表れだと認識しております。



副理事長 井口 武雄

◆ 井口副理事長は、これまでの豊かな企業経験を生かして茗溪会運営にあたっておられます。

現代社会における企業の役割や企業からみた教育界への期待などについて専門のお立場からお話してください。

(井口副理事長)

① 企業で求められる人材やその能力について

経済のグローバル化によって企業は、自国内の事情だけに従って事業活動を行っていたは存続することは出来ません。経済のグローバル化の中では、人・物・金が国境とは関係なく移動し、最も効率の良いところに集中することに加えて、情報が瞬時に世界を駆けめぐり人・物・金の移動を支配します。

日本においては、経済のグローバル化のほかに、少子化による人口減と高齢化が企業に対応をせまっています。

このような環境の中では、企業で働く人に次のような能力が求められると思います。

ア 世界の経済・社会・政治・安全・文化等に顕われる変化のきざしや、実際の変化を敏感にキャッチし、すばやくしかも鋭く対応する観察力と行動力
イ 日本人との間でも外国人との間でも、自分の考えをきちんと述べ、相手の考えを素直に聞くコミュニケーション能力
ウ どんなことに対しても、先入観を持たずに興味を持って直接あたる包容力

ウ どんなことに対しても、先入観を持たずに興味を持って直接あたる包容力

エ コミュニケーションを円滑に行うための日本語力、外国語力

このことは、単に外国語が出来る人材を育てれば良いということではありません。

なお、地球規模で物を考え、行動するにあたっては、日本の歴史、文化、伝統等を十分に識る必要があります。

② 企業の役割について

主な企業の役割は、次の通りです。

ア 製品やサービスを創造し、提供して人に利便をもたらす。

イ アの実現のために人々を雇用し、生活の糧をもたらす。

ウ アを実現し、利益をあげ、その利益をステークホルダーに分配する。

この役割をきちんと果たす企業が、優良企業です。また、この役割を果たすからこそ企業は社会にとって必要なのです。

企業が社会から求められている役割をきちんと果たすことが、社会への最大の貢献ですが、最近、これに加えて次のような役割も強く求められています。

エ 優良な市民として不祥事を起こさないことは当然として、環境や地域社会に十分配慮した事業活動を行う。

オ 文化や芸術等の維持・発展に貢献する。

このような社会の要請に応じて、多くの企業が事業活動・決算等の報告に加えて環境レポートCSR (Corporate Social Responsibility) レポート等を発表しています。

③ 教育界への期待

業種や規模にかかわらず、企業はグローバル経済(競争)の中で事業活動を行っています。

従って、これに対応できるように、地球規模で物を考え、行動する能力を持った人材を、教育界としては育成して欲しいと思います。

④ 企業で働く同窓生に対する茗溪会の役割

同窓生は様ざまの異なる企業や組織で働いています。従って、同窓生が何人か集まれば自ずから異業種交流の場となります。

異業種交流の良いところは、価値観が異なり、役職が異なり、喜び・悩み等が異なる者が語り合い、意見を交わすことにより、それぞれの視野を広げ、能力を高めることが出来ることです。

そのような場を容易に作れるのは同窓会です。

茗溪会の各地域組織等が、意識してそのような場を作れば、同窓生に活力が生まれると思います。

(私の友人が卒業した大学の同窓生の強さは、同窓会がそのような場を作り、頻繁に集まっていることも寄与していると思います。)

勿論、同窓生がその場に臨む意欲と行動力を持つ必要があります。

⑤ 企業をめざす学生に対して茗溪会は何ができるか

「東大、早大、慶大卒業生で十分、間に合っている。教育大卒業生はいらない」と、某会社を訪問したときに言われ、受験の機会も与えられなかったことが、今も私の頭から離れません。

いまの筑波大学の卒業生が、このようなひどい目に合うことは皆無であろうと思います。

しかし、他大学に比べ、企業で働く卒業生との絶対数は少ないと言えます。

従って、就職活動において企業を個別に訪問して、生の情報を集める範囲等には、自ずから限度があります。

企業のホームページ等で情報を集めることは出来るが、その情報に人の温もりはありません。

企業の経営者の話は、面白いかもしれませんが、就職活動にはあまり役に立たないとは思いますが、企業で働く入社五年から十年目の社員を茗溪会が招き、企業への就職を望む学生との意見交換の場を設けることは大いに役立つことと思います。

大学入学試験制度は どう改革すべきか



同世代の半数以上が大学や短大に進学する「ユニバーサル・アクセス」の時代を迎え、大学はもはやエリートを育てる場ではなくなってきました。

基礎学力の不足から授業についていけないような学生も増え始め、入学後に補習授業を行う大学すら現われてきています。そして、このような学生の学力低下は、大学の教育や研究に支障が出るばかりではなく、わが国の経済や文化の発展にも大きな影響があると危惧されるようになってきました。

一方、わが国の大学は、世界のグローバル化に対応して、国際的に活躍できる人材を育成するという新たな役割も求められはじめています。こうしたさまざまな課題に対応していくため、各大学は、学生をどう選拔し、どう育てようとしているのでしょうか。国や各大学の入学試験改革の動きをみながら、「ユニバーサル・アクセス」の時代を迎えた大学のあり方について、教育学者清水一彦さんと考えてまいります。

清水一彦さんと話し合っていたのは、筑波大学副学長の阿江通良さんと、同じく筑波大学教授でキャリア教育が専門の藤田晃之さんです。

阿江通良さんは筑波大学の入学試験を担当されていますので、筑波大学がいまどのような入試改革に取り組んでいるのか紹介していただきます。また、藤田晃之さんには前回に引き続き進行役もお願いしています。

「世界の多くの国が大学ユニバーサル・アクセスの時代を迎えている」

藤田 きょうは、「大学入学試験制度はどう改革すべきか」というテーマでいろいろ考えていきたいと思いますが、このテーマに入る前に、まず、「戦後のわが国の大学進学率が伸びてきた背景には何があったのか」、そして「世界に目を向けると、わが国よりも大学進学率の高い国が増えていますが、それはどうしてか」というあたりから、話を進めてまいりたいと思います。

わが国の大学進学率上昇の背景

清水 わが国の大学進学率は、1955年(昭和30年)代はわずか8%でしたが、その後1975年(昭和50年)代にかけて上昇を続け27%に達しました。特に1965年から1975年にかけての伸びは急でして、その背景には「いざなぎ景気」といわれた経済成長や団塊世代後の出生人数の減少があったと考えられます。

その後1990年(平成2年)までは横ばいが続きましたが、翌年から再び上昇に転じ、50%を超えるようになりました。

戦後のわが国の大学進学率がこのように大きく伸びた理由として考えられるのは、やはり、わが国の経済の発展により人材を確保する必要性が高まったこと、また家計にもゆとりが生まれ、子どもに高い教育を受けさせたいという親御さんたちの願いが高まってきたということがあろうと思います。



藤田晃之氏

- 1988年 筑波大学第二学群人間学類卒業
- 1993年 筑波大学大学院博士課程教育学研究科単位取得退学
- 1985年 博士(教育学)
 - ・専門はキャリア教育学
 - ・教育制度学会理事
 - ・日本キャリア教育学会理事

世界の大学進学率上昇の背景

藤田 OECDの調査を見ますと、世界各国の大学進学率はわが国の進学率以上に高い数字を示しています。その理由はどこにあるのでしょうか。

清水 ご指摘のように、OECDの最新の統計（2011年）では、わが国の大学進学率は52%で、OECD諸国の平均が60%ですから、わが国の数字は必ずしも高いとは言えません。

その理由は、日本の統計が4年制大学だけのものであって短期大学や専門学校は含まれていないために、このような数字になっているのです。わが国の場合も短大を入れると55%、専門学校を入れれば78%という高い数字になります。

近年、大学進学率は国力を示す指標の一つのようになっていますが、私は必ずしもそうとは言えないと思っています。

現にフランスやドイツのように、高等教育をほとんど無償で受けられる国であっても、大学進学率はわが国よりも低い数字になっています。

それは、これらの国では、職業教育の体系がきちんと確立されているからです。

ただ、最近のアジア諸国も、戦後のわが国がそうであったように、経済成長とともに大学進学率が上昇し、高度な専門職業人が育ち、国の発展を支えてきたという歴史がありますから、大学進学率の上昇と経済成長との関係はきちんと押さえておかねばならないだろうと思います。



清水一彦氏

1974年 東京教育大学教育学部教育学科卒業
1980年 筑波大学教育学研究科博士課程単位取得退学
1997年 博士（教育学）
・専門は教育制度学
・日本教育学会理事
・日本教育制度学会理事（事務局長）

一方、わが国では、大学進学率の上昇とともに、定員割れの大学が続出するという新たな問題が起り始め、定員割れの大学は4割にも達していると言われています。

その原因は少子化にあると指摘する人もいますが、専門学校への進学率が高まっていることと併せて考えると、私は、大学と社会の労働需給のバランスが崩れてきていることが大きな原因になっていると考えています。

「大学栄えて国滅ぶ」ことのないように、産業構造の変化や技術革新等に対応しながら、国が、労働政策や経済政策と見合った高等教育政策を考えていくことが急務になっているのではないのでしょうか。

「わが国の大学入試制度はどう変わってきたか」

藤田 ここまで、わが国の大学進学率が上昇してきた背景とOECDの統計に表れた各国の大学進学率の意味するものについて見てきましたが、大学進学率の上昇の背景には入試システムも深く関わっているのではないかと思います。

そこで、戦後のわが国の大学進学率が8%の時代から最近の55%になってくるまでに、入試システムはどのように変容していったのかについて話を進めていきたいと思っています。

清水 前回の「学制改革」の時にもご紹介しましたが、アメリカの社会学者のマーチン・トロウは、大学進学率が15%までは「エリート段階」、15%から50%までを「マス段階（大衆化）」、そして50%以上を「ユニバーサル・アクセス段階」という3段階のモデルを示しました。

この「トロウ・モデル」を大学入試との関係でみると、

〈進学要件〉は、「エリート段階」では、所得や才能などの制約を受ける。「マス段階」では一定の制度化された資格が必要

になる。「ユニバーサル段階」では個人の選択意思で開放的なものになるとしています。また、

〈学生の選抜原理〉は、

「エリート段階」では能力主義（中等教育での成績や試験による選抜）、「マス段階」では能力主義に加えて個人の教育機会の均等化、「ユニバーサル段階」では万人のための教育保証に加えて集団としての達成水準の均等化が求められるとしています。

藤田 そうしますと、わが国の戦後の大学入試制度も、マーチン・トロウのモデルのように《エリート段階→マス段階→ユニバーサル段階》というように変容してきたのでしょうか。

清水 いいえ、わが国の大学入試制度は、「トロウ・モデル」のように設計されてきたかという点、必ずしもそうはなってはいません。

わが国の大学入試制度は「猫の目改革」と揶揄されてきたように、これまでめまぐるしく変わってきました。

1947年（昭和22年）の「進学適性検査」を皮切りに、1963年（昭和38年）の「能研テスト」、1979年（昭和54年）の「共通一次学力試験」を経て、1990年（平成2年）の「大学入試センター試験」に至るまで、ほぼ10年間隔で共通試験制度の改革を経験してきました。

しかし、「進学適性検査」と「能研テスト」は、大学での利用が積極的でなかったため、あまり普及しないまま廃止になり、国立大学の入試制度で改革が強く求められるようになってきたのは、I期校とII期校の問題でした。

当時、国立大学はI期校とII期校の2つの区分に編成されていて、I期校は3月上旬にII期校は3月の下旬に試験があり、受験のチャンスが2度ありました。このI期校とII期校というのは必ずしも序列を意図した編成ではなかったのですが、「II期校コンプレックス」という言葉が生まれたように、期別の大学群が序列化されるようになり、その弊害を是正するために原則1校受験の「共通一次学力試験」が実施されるよう

になったのです。

なお、このⅠ期校とⅡ期校の一元化については、当時の国立大学協会は賛意を示しましたが、高等学校長協会側は「学費の安い国立大学を受験するチャンスを半減させる」という理由で強く反対していました。

藤田 阿江先生もⅠ期校・Ⅱ期校の世代だと思いますが、そのころの受験生の生活はどのようなものだったのですか。



阿江通良氏

1973年 東京教育大学体育学部卒業
1982年 筑波大学体育科学研究科博士
課程修了
教育学博士
1982年
• 専門はスポーツバイオメカニクス
• 日本体育学会会長

阿江 私の高校は兵庫県の田舎の学校でしたのであまり

受験勉強をしたという記憶はないですね。もちろん当時も「4当5落」という言葉（5時間以上寝ていては合格できないという受験競争を象徴するような言葉）もありましたし、各県や旺文社が行う模擬試験もありましたが、私たちは「一に体力、二に気力、三に学力」といって、教科書と学校で用意してくれた問題集で勉強するくらいで、のんびりやっていました。

私も卒業式の直前まで運動部の練習に明け暮れていました。

清水 それは阿江先生が優秀だったからですよ。（笑）

藤田 当時の高校生がすべて阿江先生のように高校生活を十分謳歌しながら大学受験に臨んでいたとは言えませんが、ただ1975年の段階での大学進学率が27%であったということを考え併せると、大学受験はまだ少数の選ばれた人たちのものであったということも言えるのではないのでしょうか。

阿江 確かに、その当時の私たちの高校は1学年が400人

でしたが、大学に進学するのは100人程度で、残りは就職してしましてから、大学受験は少数者のものであったと言えるかもしれません。

藤田 そういう時代を経て「共通一次学力試験」の時代を迎えることになります。

私は「共通一次学力試験」の2年目の受験生ですが、「新しい大学入試制度はⅠ期校とⅡ期校という大学の序列をなくし、激しい受験競争をなくしていくんだ」という触れ込みの中で育ってきました。

しかし、残念ながらそのようにはならず、先生方の時代にはなかった「偏差値」というものが登場し、代ゼミ・河合塾・駿台などの予備校や旺文社の出す偏差値データによって大学は1点刻みで細かくランキングされ、自分の将来を考えて大学を選ぶよりも、1ランクでもいい大学に行きたいという思いで勉強を続けた高校時代でした。

「共通一次学力試験の見直し、そして大学入試センター試験の導入へ」

藤田 多くの期待をもって導入された「共通一次学力試験」も、めざしていたような入試制度の改革にはつながらず、わずか11年で「大学入試センター試験」に代

わりました。この「大学入試センター試験」の導入には中曽根首相の下に設置された臨時教育審議会の答申がきっかけになったと聞いていますが、この答申が出された背景には何があったのでしょうか。

清水 1984年（昭和59年）に、当時の中曽根首相の下に設置された臨時教育審議会は、第1次の答申で、従来の「共通一次学力試験」に代わる「大学入試センター試験」の導入を提言しました。

実はこれには裏があつて、臨教審は、最初は「教育の自由化」をテーマに、わが国の義務教育を含む初等・中等教育の改革に切り込む計画でした。しかし、「教育の自由化」が義務教育段階に及んでいくと、文部省にとつてはおひざ元が崩れることになりまますから、臨教審との間で激しい綱引きがあつて、結果的に文部省

が勝利し、長年の課題であつた義務教育段階の自由化には手を触れることができなくなっていました。

そして代わりに出てきたのが、「大学入試制度の改革」で、「行き過ぎた受験競争を是正し、学歴社会の弊害をなくそう」、そのために「各大学の入試のやり方を改善していくとともに、それまでの共通一次学力試験に代えて、新たに国公私立を通じて各大学が自由に利用できる「共通テスト」を創設する」という提言でした。こうして臨教審の改革第1号として、「大学入試センター試験」が導入されることになったのです。

藤田 「大学入試センター試験」の提言で私が驚いたのは、この新しい大学入試制度が「国立大学だけではなく私立大学を含めて利用可能な制度にしよう」というものであったことでした。臨教審の提言が私立を含めた制度にしようとした意図はどこにあったのでしょうか。

清水 中曽根首相の政策は「民活」が基本ですから、大学もパブリックなものからプライベートなものにシフトしていくべきであるという考え方が背景にあったのではないのでしょうか。

この頃になりますと、大学進学率の上昇とともに私立大学の数も増え、わが国の高等教育における私学のウェイトも大きくなってきていましたから、私学も含めて高等教育全体を変えていくという意図で、「民活」に舵を切ったのではないかと思われます。

「各大学での多様な入試方法の導入」

藤田 「大学入試センター試験」になって、今までと大きく変わったのは、各大学はこの試験を多様な入試資料の一つとして利用するようになったということです。そういう各大学の多様な入試の中には、例えば「AO入試」とか「飛び入学制度」があります。

しかし、「AO入試」も多くの大学で導入されていますが、入学はしたものの学力が担保できていない学生が多いという批判も生まれています。

「飛び入学制度」については、千葉大学で初めて導入

され、一時は脚光を浴びましたが、あまり普及するという状況にはありません。

このような「AO入試」や「飛び入学制度」のような新しい入試制度のあり方について、清水先生はどのように評価していますか。

AO入試をどう評価するか

清水 AO（アドミッション・オフィス）入試というのは、ペーパーテスト型や学校推薦型の入試とは異なり、受験者から多様な資料を提出してもらって面接等により受験者の能力を多面的・総合的に評価しようという入試制度で、アメリカの大学はすべての入試がAO入試になっています。

わが国では1990年（平成2年）に慶応義塾大学湘南藤沢キャンパスに初めて導入され、その後徐々に普及し、現在では54校、80%近い大学で実施されるようになっています。AO入試による入学者も5万人ほどに上っています。

では、なぜわが国でこれほどまでにAO入試を実施する大学が増えたのかというと、1991年（平成3年）の大学設置基準の見直しを契機に、多くの大学で入試方法や入試内容の改善に取り組むようになったことが考えられます。その頃の大学入試は「コンビニ入試」といわれるほど「多様化・複雑化・軽量化」が進み、その一つとしてAO入試も多くの大学で採用されるようになったのです。



AO入試は先ほどお話したように、受験者の能力を多面的・総合的に評価しようとするものですから、わが国の学力偏重の大学入試を改革するための切り札になりえた制度です。

だから、1999年（平成11年）の中教審答申でも「AO入試は受験生を多面的かつ丁寧に見るためのきめ細かな選抜方法」と位置づけ、入学者選抜に関する高い専門性を有するスタッフを備えた専門部署の設置や体制整備が推奨されました。

そして、国立大学では、筑波大学・東北大学・九州大学の3大学を皮切りに2000年（平成12年）度の入試からAO入試が導入されるようになり、それぞれの大学に専任の教員を配置するセンターが設置され、研究開発と入学者選抜の業務を行う体制が整備されました。

筑波大学では、現在、AC（アドミッション・センター）にセンター長を含めて4人の教員スタッフが配置され、評価基準を作成し、各種資料や面接を通して受験者の資質・能力・適性を多面的に見て可否を決める体制になっていますので、新しい入試制度として十分機能できているのではないかと考えています。

藤田 AO入試については、「入学はしたものの大学の授業についていけない学生が多い」という批判も聞かれます。

清水 AO入試は受験生の能力を多面的・総合的に評価しようというものですから、評価基準の作成が必要で少し体制整備も必要です。しかしわが国では、多くの大学で多様な入試の一つとして安易に採用されたために、実施方法や運営に問題があったことも事実です。

また、最近では18歳人口の減少や都市部の大学への志願者の集中などの影響により、一部の大学では学力を不問にして、「学生確保」のためにAO入試を活用するとか、悪用するケースも出てきて、それがマスコミなどの「学力低下批判」につながっているのではないかと思います。

藤田 一部の大学で「学生確保」の方策として使われてしまったことが「AO入試批判」を生んでいるという

ことですが、では、AO入試はわが国の入試改革の切り札にはならないのでしょうか。

清水 アメリカのように、わが国の大学入試もすべてAO入試にしてしまえば、入試改革の切り札になりうると思いますが、そのためには莫大な人・物・金がかかりますからそれは難しい。

ではどうしたらいいかということですが、私は、AO入試は学力偏重の従来型の入試を変えていく可能性を持った制度だと思っていますので、新しい大学入試制度でも、AO入試の理念を組み込んでいくことが必要ではないかと考えています。

飛び入学制度をどう評価するか

藤田 飛び入学制度は、1998年（平成10年）に千葉大学でスタートしてからすでに十数年が経ちましたが、あまり普及していません。入試制度の改革を考える時に、この飛び入学制度はどう評価したらいいのでしょうか。

清水 「飛び入学」は、学業優秀者を早期から教育しようという目的で始まった例外措置で、ある学校段階の中途学年の終了とともに上級の学校段階に入学することのできる制度です。

現在、わが国では、高校2年終了後に大学に入学できる制度と、大学3年終了後に大学院に進学できる制度があります。厳密に言うと、前者は「飛び入学」、後者は「飛び級」と区別されています。

このうち大学院への「飛び級」については、現在50の大学で実施され219人が入学していますが、大学への「飛び入学」を見ると、千葉大学のほか私立の名城大学など6大学で実施されているだけで、実際の入学者も昨今では千葉大学に限られています。

ではなぜ、「飛び入学」は普及しないのか。

世界の学業優秀者の教育を見ると、アメリカや中国では小学生が大学に進学するというニュースが報じられるように、英才を早くから教育する制度があります。だからわが国で「飛び入学」の制度を導入したのは、学業優秀者の教育の国際標準化の動きと見ることはで

きます。

しかし、わが国では「出る釘は打たれる」という諺があるように「みんな同じ主義」が強く、このような環境が、制度ができてなかなか普及しない原因になっているということが考えられます。

もう一つ、私が指摘しておきたいのは、この「飛び入学」というのは、教育制度の観点からみると問題があるということです。飛び入学した生徒は高校2年から大学に行くわけですから、高校を卒業していません。もしこの生徒が大学の途中で退学したりすると、学歴は中卒になってしまいます。私は卒業しないで上級学校に進学できる制度は「欠陥制度」であると考えています。

【新しい入試制度の検討が始まった】

藤田 中央教育審議会は、つい最近の10月24日に、新しい入試制度として、「高等学校基礎学力テスト」（年2回実施）と「大学入学希望者学力評価テスト」（年複数回実施）という答申案を発表しました。この答申案によると、

「高等学校基礎学力テスト」は、高校での基礎的な学習の達成度を測るテストであり、また、「大学入学希望者学力評価テスト」は、現在の「大学入試センター試験」に代わるもので、教科の枠を超えて思考力・判断力・表現力を評価するテストであると説明しています。



そして、各大学の個別試験も知識偏重の試験ではなく、総合的な総合力を問う試験に代えていくことが求められていますし、集団討論やプレゼンテーションを通じて意欲や思考力をみる試験に切り替えていくことも提言されています。

答申案が出されてまだ日が浅いので、世間的な評価は定まっていませんが、大学や高校の現場では「これからどうなっていくのか」という不安感が高まっています。

この中教審の答申案についてはどのように受け止めたらいのでしょうか。

清水 「共通一次学力試験」が導入されてから間もなく40年を迎えます。前回も述べましたように、どんな制度でもおよそ40年のサイクルで制度疲労がきますので、そろそろ大きく見直さなければならぬ時期に来ていることも事実です。

「高等学校基礎学力テスト」は
学校教育のアカデミック・スタンダードを
確立することができる

清水 私は、今回の中教審答申案の目玉である「高等学校基礎学力テスト」は、グローバル社会におけるわが国の学校教育のアカデミック・スタンダードを確立するという意味において意義のある提案だと思っています。

そして、制度的な観点から見ると、この「高等学校基礎学力テスト」は、農耕民族社会における競争選抜試験から、狩猟民族社会における資格試験への大きな転換であると思います。つまり、点数主義からの脱却です。

今日のようなグローバル社会では、「1点でも高い点数を取った人の方が潜在能力も高い」と考えるこれまでのような競争選抜試験や「絶対的公平性」概念は、もはや通用しなくなってきたのです。

「大学入学希望者学力評価テスト」は
高校教育のあり方を考える絶好の機会になる

清水 知識の活用力を問う「大学入学希望者学力評価テスト」については、知識の量ではなく考える力や意欲を重視すると思いますが、考える力や意欲をどのようにして評価していくのかということは、なかなか難しい課題です。

しかし、義務教育と高等教育をつなぐ高校教育のあり方を再検討する上では絶好のテーマであり、アーティキュレーションを確立する上でも意義のある議論が展開されるのではないかと考えています。

そしてその議論の際に忘れてならないのは、学習者の発達や学習の連続性を保障する視点です。つまり、新しい入試制度を「点でとらえるのではなく、線や面でとらえながら高校教育と大学教育の接続を図る」という視点で議論することが重要なのです。

「線でとらえる」ということは、大学の先生が高校に出向いて授業をしたり、高校生が大学で授業を受けたりにすることにより、入試だけでつながっている高校と大学の関係を改善していくということなのです。

この試みは、「高大連携」と呼ばれ、筑波大学でもすでに多くの高校との間で実施しています。

そして「面でとらえる」ということは、さらに進んで、高校と大学の教育目的を重ね合わせて、例えば高校3年と大学4年を合わせた7年間のカリキュラムをつくり、高校と大学の間で単位の互換も自由にできるようにしようという考え方です。この考え方はむしろ「高大接続」と呼ばれ、アメリカではすでにこのような考え方の制度が始まっている州もあります。

しかし、わが国の学校制度では、1947年(昭和22年)につくられた学校教育法の目的規定で、高校までの普通教育と大学とは切り離されたままですから、多くの高校と大学は依然として入試でつながっているだけの関係になっています。

それだけに、これまでの点数主義の入試を抜本的に

変えようという今回の新しい入試制度の考え方は、高校教育と大学教育を線や面で強く結ぶための突破口になるのではないかと期待しているのです。

新しい大学入試では見えない力をどう測っていくのか

藤田 新しい入試制度は、早ければ2021年(平成33年)には導入されるといわれています。しかし、これまでとは全く違った入試になるわけですから、大学にとっても課題は大きいのではないのでしょうか。

清水 大学にとって一番難しいのは、「生きる力」とか「意欲」とか、目に見えない力をどう測っていくかということだと思います。

しかし、私は、大学側がきちんとしたアドミッション・ポリシーを明確にし、高校までに身につけて欲しい具体的な能力を公表すれば、学習意欲であろうと考える力やコミュニケーション能力であろうと、測ることができると考えています。

グローバル社会とか知識基盤社会といわれる今日では、むしろ見えない力の方が社会で求められる能力ではないかと思っています。

アメリカの共通テストであるSATも読解力や分析力を重視した新たな方式への大転換を図ろうとしています。社会の変化を見据えた大改革です。

わが国の入試もこうした長期展望に立つて、人物を総合的に判断する方式への舵とりが急がれているのです。

その意味では、大学人は本気になって今回の入試改革に取り組んでもらいたいと願っています。

SAT (scholastic aptitude test)

アメリカで一番広く使われている大学進学適性試験。

1年間に7回実施され、繰り返し受験できる。

【筑波大学は入試改革の先駆者である】

藤田 筑波大学は、これまでさまざまな形で入試改革に取り組んできましたが、今年度は、他大学に先駆けて全学でIB入試を導入しました。そのねらいはどこにあるのか、また、筑波大学は次にどんな入試改革をしようと考えているのか、阿江先生にお伺いしたい。



筑波大学では、なぜIB入試を全学で導入したのか

阿江 筑波大学は、「国内的にも国際的にも開かれた大学」として「不中断の改革」が求められていますから、入試改革についても、さまざまな取り組みをしています。

その一つがIB入試(国際バカロレア特別入試)です。

ではなぜ他大学に先駆けて、全学でIB入試を導入したのかというと、「コミュニケーション能力」とか「ディスカッション能力」とか、日本の教育ではあまり重きを置いていないような多様な能力を持った優秀な人材を世界中から集めたいというねらいがあるのです。

そして、IB入試で入学してきた学生と一般入試で入学してきた学生が、勉学や研究の場で、あるいはサークル活動を通じて、お互いを高めあい、グローバル時代を生き抜く力を身につけていくことを期待しているのです。

また、筑波大学では、一般入試や推薦入試で、英語の「reading listening writing speaking」の4技能を測る英語検定試験を導入することも決めました。

この試みも、学生たちの英語に対する苦手を意識を払拭して、将来、世界で活躍できる人材を数多く育てたいというねらいから生まれた改革です。

教員推薦OCも検討している

阿江 いま我々が検討している新しい入試制度に、もう一つ「教員推薦OC」(仮称)があります。

これは、大学の先生が高校に出かけて出前授業を行ったり、高校生に大学の授業を受けさせたりしながら、1~2年かけてじっくり観察をして、「この子はいいい子だからぜひとりたい」という生徒を推薦してもらい、推薦した先生が責任をもってその子を教育するという制度です。

私の専門は体育ですが、体育の分野では、これまでも高校2年生のころから優秀な生徒に目をつけて推薦入試の受験をお願いすることもあります。また、筑波大学にはトップクラスの附属高校がありますから、そこからも優秀な生徒を推薦してもらって入学させたいと考えています。

しかし、文部科学省からは、「前例がない」「不公平になる」と言ってなかなか首を縦に振ってもらえません。

AO入試を成功させるための新たな挑戦

阿江 筑波大学でも、AC入試(筑波大学ではAC入試という)がうまくいっているところと、そうでないところがあります。

うまくいっていないのは、AC入試で入ってきた学生を、従来型のカリキュラムに押し込んでしまっているためです。

そこで、AC入試で入ってきた学生の能力を更に伸ばしていくために、「先導的研究者体験プログラム」をつくりました。このプログラムは、1年生の時から専門性の高い授業を履修させ、能力や意欲を伸ばしているのです。

こういうものです。

国際科学オリンピック出場者などの高度な能力を持つ学生には、1年生でも研究経費の補助を行い、研究室に入ってもらって専門の教員の下で研究ができるシステムも用意しています。

【大学入試改革は大学を変えることである】

藤田 阿江先生からご説明いただいた筑波大学の入試改革は、まさに大学を変えていくための挑戦であるといっているのではないかと思われませんが、では、「ユニバーサル・アクセスの時代を迎えたわが国の大学はどう変わっていく必要があるのか」、また「そのために大学入試はどうあるべきか」を清水先生にお伺いして、今回のまとめしたいと思います。

清水 いま大学では、新しい入試制度が求める「学習意欲」とか「生きる力」をどう評価するのかということ、頭を悩ませています。それは、これまで大学がやってこなかっただけで、できないことではない。やらなければならないことなのです。

教育という言葉は、もともと「educate＝引き出す」という意味ですから、意欲を伸ばしたり、目に見えない能力を引き出したりするのは教育本来の仕事です。大学人もこれからはそういう視点に立って入試改革や大学改革に取り組んでいかなければならないと思います。

では、そういう目に見えない能力を引き出すためにはどのような制度を構築していったらいいのか。



私は、制度設計に際しては、入試を点ではなく線や面としてとらえながら学校間のスムーズな教育接続を図るとともに、教育制度全体の「競争の重心」を初等・中等教育から高等教育へ移行することが重要だと考えています。

入試を点ではなく線や面でとらえるということについては、前にお話ししたので、ここでは、競争の重心を移行するというのはどういうことかということについて少し説明いたします。

いま、わが国では、競争の重心がどんどん下がってきて、都市部では小学校レベルで激しい競争が行われるようになってきています。

しかし、競争が一番激しいのは社会ですから、競争の重心を社会に向くように移していかなければなりません。

そのためには、「初等・中等教育はできるだけ緩やかに柔軟性のある教育システムに変えていく」、そして「大学は入試のところではなく、入学後の成績評価を厳格化し、学位の質を保証するための競争に重心を移行していく」という制度設計が必要になると考えているのです。

教育制度全体における「競争の重心」が大学に移行して大学教育の質が保証され、そして、入試制度の改革によって大学と高校以下の学校との教育接続がスムーズに行われるようになれば、高校の教育も小学校や中学校の教育も大きく変貌し、それぞれの学校段階のあるべき姿を取り戻せるようになるのではないのでしょうか。

藤田 きょうは「大学入試試験制度をどう改革すべきか」というテーマで話を進めてきましたが、いま中教審が提案している入試改革は、「若者を点数で選抜してきたこれまでの入試のあり方を抜本的に見直し、大学自らがどういう若者を受け入れ、どういう人材に育て上げていくかとしているのか問われている」というスケールの大きな改革であることを知りました。

そして、大学入試の改革は大学を改革することであり、大学を改革することにより高校以下の学校が本来

の姿を取り戻すことができる施策であることもわかりました。

そうした意味では、阿江先生に紹介していただいた筑波大学の入試改革は、まさに中教審の答申案に先んじた入試改革であり、大学改革であり、学校制度の改革であることもできるのではないのでしょうか。清水先生、阿江先生、きょうはありがとうございました。

今回は「現代社会はどのような教師を求めているか」というテーマで、教員養成制度のあり方について考えていく予定です。

（この話し合いは、昨年の10月28日に行われたものです。）



公開講座

藤原教授の英語のはなし 第10弾

「英語をさかのぼる」

講師：藤原 保明氏
(筑波大学名誉教授)

平成26年9月27日(土)
(午後2時～3時30分)
筑波研修センターにて



第10回目を迎える今回の講座では、魔法で恐ろしい竜に変えられ、小さな島に囚われの身となっている若い娘の救出談を読んで、600年ほど前の英語の特徴を探ることにした。

1 『マンデヴィル旅行記』

14世紀頃の西欧では、『マンデヴィル旅行記』と称される本が広く読まれていた。この旅行記はベルギー東部の町リェージュに住んでいた医師が1357年頃にフランス語で書いたもので、まもなくラテン語と英語に翻訳されたと考えられている。最も古い英語の写本は1400年頃のものである。

著者はこの本を聖地エルサレムへ巡礼しようとする人々の案内書として書き始め、道順、町、重要な地域の興味深い場所についてありきたりの説明をして、そのあとで、エジプト、小アジア、ペルシャ、インド、中国、その他多くの場所への旅の案内をしている。

この旅行記に登場する人間や事物や現象は、著者は見てきたと称するが、奇怪で信じがたいものが多い。たとえば、額の真中に目が一つだけある巨人族、首がなく目が肩についている人々、耳が膝まで垂れている人々、巨大な片足だけで飛び跳ねる人々、大勢の人が殻の中に住めるほど巨大なかたつむりなどである。にもかかわらず、この旅行記は当時の西欧で最も広く知られた本であることは間違いない。

著者は家から一步も出ることなく、13～14世紀頃のイタリアの東洋旅行者、オデリコやカルビーニの見聞録を切り張りしたらしい。それゆえ、この旅行記は歴史的、地理的、文学的情報としての価値は乏しいが、1400年頃の英語の構造や特徴を知る上で貴重な文献であり、また、現在においても奇習異俗に満ちた愉快な読み物となっている。

2 ヒッポクラテスとその娘

『旅行記』の第4章は「竜になったヒッポクラテスの娘」の話が中心である。この話の背景として、地中海の東にあるランゴ島（現在はコス島 Cos）は、かつてギリシアの医学の父と呼ばれたヒッポクラテス（紀元前460-375頃）が住んでいて、ギリシア神話の医神アスクレピオスの祭儀の中心地であり、その祭儀と大蛇は密接な関係にあったこと、また、ヒッポクラテスにはドラコー（ラテン語の draco、ギリシア語の drakon 'dragon'）という息子または孫がいたと言われているということがある。なお、ヒッポクラテスはギリシアの哲

学者プラトンの著作の中で著名な医師・教育者として言及されているが、広く諸方を旅したことで知られている。

3 『旅行記』の英語の特徴

母音は原則としてローマ字読み（he 'he' は「ヘー」、yeer 'year' は「イエール」、but 'but' 「ブット」）、ただし、ou は「オウ」か「ウー」（doughter 「ドゥホテル」、dragoun 'dragon' 「ドゥラグーン」）、i と y、v と u は互換性があり、have は haue、unto は vnto、upon は vpon と綴られた。語末の -e は複数形以外ではたいてい無音（forme 'form'、olde 'old'）であった。動詞の3人称・単数・現在形は -eth の語尾を伴い、不定詞は -n で終ることが多かった。一方、than と then は元は同形であったが、『旅行記』では3つの異形 thanne, thane, than が用いられている。

4 ヒッポクラテスの娘の救出談

物語は、And somme men seyn that in the ile of Lango is yit the doughter of Ypocras in forme and lykness of a gret dragoun … 「うわさでは、ランゴ島には今でもヒッポクラテスの娘が巨大な竜に似た姿で住んでいる…」で始まる。島の住民は彼女を「島の貴婦人」と呼んでいる。彼女は古城の洞穴に住み、年に2～3回姿を見せる程度である。人が彼女に危害を加えない限り、彼女も人には害をなさない。騎士が彼女に近づき、キスをするまで、元の姿には戻れない。

そこで、a kyght of the Rhodes, that was hardy and doughty in armes, seyde that he woulde kyssen hire. 「武具を身につけた勇敢で逞しいロードス島の騎士が彼女のキスをしてやる」と言い、馬にまたがって洞穴に入ってしまった。ところが、騎士は彼女の恐ろしい形相を見て逃げ去る。竜は騎士を岩の上に運び、馬もろとも海に突き落とす。

次に訪れた騎士ではない若者に対して、彼女は自分の身の上を語り、騎士になって再訪し、恐れずにキスをしてくれと頼む。ところが、騎士になった若者は恐ろしい竜に驚き、あわてて逃げ去る。そして、whan sche sawgh that he turned not ayen, sche began to crye as a thing that hadde meche sorwe, and thanne sche turned ayen into hire cave. And anon the knyght dyede. 「彼女は若者が洞穴に戻らないと知ると、深い悲しみに沈んだ者のように泣き出し、洞穴に入った。すると間もなく、騎士も息絶えた。」以後、彼女にキスができるほど勇敢な騎士は現れていない。

5 まとめ

物語はハッピーエンドではなかった。娘はその後どうなったか案じられるが、なにぶん古い話なので知る由もない。地中海の東岸の島々にはなぜか心引かれるものがある。

いつも熱心に私の話を聞いてくださる方々に会えるのが楽しみです。講演の後の質問も何が飛び出すかわくわくします。まさかあの竜を見たという人は現れないでしょうが。

公開講座

「年末年始に楽しむ」

冬の寄せ植え」

平成26年11月29日(土)

筑波研修センターにて

事務局が地元のタウン誌などを中心にPRを行ったおかげで、定員を上回る応募をいただきました。しかし、当日は久しぶりの大雨になって欠席者が多く、結果としては36?名の参加になりました。

また講座を行う機会があれば、受付の際に欠席の場合にはご連絡をいただきキャンセル待ちを10名受けるなど、工夫が必要かと思いました。

ところで当日の内容ですが、冬の鉢花「シクラメン」について解説を行った後、簡単な実習を行う。次に「年末年始に楽しむ寄せ植え」の解説後、参加者が実際に寄せ植えを作るといふ、盛りだくさんの内容でした。園芸は植物に触れてこそ楽しさが倍増するものなので、なるべく実習を取り入れました。

有り難いことに、材料などの運搬は事務局が担当して下さいました。



講師 西川 綾子氏
水戸市植物公園園長
茗溪会理事

冬の鉢花「シクラメン」について

サクラソウ科の球根植物で、地中海東部からその周辺の島に自生するシクラメン ペルシカム(C. persicum)から改良されました。近世の初め頃からヨーロッパで育種が始まり、日本には明治にC・ネアポリアタムが輸入されロックガーデンに利用されています。

開花株を購入した場合のポイントとは、蕾によく光を当てることです。わかりやすく解説するため、自宅で栽培している原種のシクラメンを、参加者にお見せしました。大きな球根の上部から花茎が多数発生し、この部分はよく光りが当たることを観察してもらったためです。市販の株は、蕾が葉に隠れて光がなかなか当たりません。そこで、周囲の葉を上から手で押さえ、中央部分に隠れている蕾が葉よりも上に出る工夫をします。葉が茂っていると陰になる葉は黄化しやすく、間伸びしてバランスが悪くなります。そこで中央部の葉を外側に移動させて、どの葉にも光が当たるようにします。これは葉組みといって、開花が促進されます。この葉組みの作業を、6人の方に体験していただきました。このような実習は初めての方が多く、大変喜ばれたようでした。

寄せ植えの実習

まず寄せ植えを作る際のポイントを紹介しました。光、温度、水はけなど性質が同じ種類を組みあわせる、草丈の違いで立体的にさせ、生長する方向(立ち性、匍匐性)で配置を決めます。根が細い種類(ネモフィラ、など)、根が少ない株の根は痛めないようにして植えた方がよい。3ヶ月以上持たせるには、わざと途中で花が終わる1年草を入れれば、それを抜いた後に土を足し、残った株が大きく育つスペースができる、などを説明した後、実習を始めました。

6タイプのコンテナに、草花、用土や土をセットし、受付が早かった人を優先に実習開始です。準備した草花は寒さに強く5月上旬まで花が咲くビオラ、パンジー、キンセンカ、キンギョソウです。そしてウインターコース

モスは1月、ミニハボタンは3月に株を抜き、穴があいた部分は用土を足して他の草花を大きく育てます。籐のプランターは用土が重いと器が崩れるおそれがあるため、特別な用土としてピートモスとパーライト同量の軽いものを使い、ほかのプランターは市販の用土を使用しました。

- ・コンテナの正面を決めて草丈の配置を考える。
- ・花がよく咲いている部分を正面に、花の向きを考えて配置する。
- ・根がはみでないように、丁寧に植える。
- ・表土は軽く押して平らにすると、水をかけたとき根が露出しにくい。

このようなポイントを考えて作成するのは、おそらく初めての方ばかりでした。

ただ植えればよい訳ではありません。育てることを考えて、上手にできあがったときの達成感を味わい、また作ってみたい!そんな気持ちになったら、私の指導は成功です。参加者の方が「とっても楽しい。」と顔をニコニコさせておっしゃったとき、筑波まで指導に来てよかった、と私もうれしくなりました。最後は参加者全員が参加するような楽しい雰囲気の中、実習は無事に終了しました。

園芸講座の依頼は多く各地で行っていますが、筑波では初めてでした。現在、朝日新聞の茨城版に「花のある暮らし」をテーマにコラムを連載しているのですが、そのファンだという方が記事の切り抜きまで持って参加して下さり、私としても地元ならではの暖かみのあるうれしい講座となりました。



茗溪・東西南北

京都茗溪会総会・講演会・懇親会、11月15日無事終了



講演会講師 北岡明佳氏

(平成3年筑波大学博士課程生物科学)
立命館大学文学部教授

平成26年11月15日(土)に、京都茗溪会総会・講演会・懇親会を京都タワーホテルで開催、会員28名が出席しました。

総会では、会務報告、会計報告、会則の一部変更が承認されました。会則については、(顕彰)第10条を(顕彰・慶事)第10条と改め、一般社団法人茗溪会及び京都茗溪会に寄与した会員の方々にも対象を広げ、喜寿(満77歳)を迎えられた方々に祝意を表することにしました。なお、京都茗溪会に寄与した会員とは、少なくとも京都茗溪会会費を通算5年以上納めた方が対象としています。

講演会では、北岡明佳先生に、『あのレディー・ガガも驚いた「錯視」について』と題して講演をしていただきました。先生は、レディー・ガガとのツウショットも披露され、パワーポイントで「錯視」について、「同じ線分が違う長さに見える」「静止図形が動いて見える」「周囲の色彩で色が異なって見える」など具体的に説明されました。時に出席者に簡単な問題を出され、出席者は自分であてられるのではと生徒のように少しドキドキ。対象

を確かに認識しているつもりでも実体は違っていて、皮相的な面だけ見て分かったような気になったり、先入観に捉われていたり、深く本質を理解できていない、見抜けないのは自分だけかと思つたり反省！

懇親会では、昭和30年卒から平成26年新卒まで幅広い出席で、田淵良秋氏(教・体・昭31卒)の挨拶、川北智世氏(教・体・昭30卒)の乾杯で始まりました。『同窓』というだけで斯くも一体感が生まれるのかと思うほど、それぞれの時代や場所を越えて和やかな懇親会となりました。岡尾恵一氏(教・体・昭36卒)が中締め挨拶をされ、最後は、全員で「宣揚歌」を歌いました。

なお、途中で顕彰式を行い、アジア大会水球銀メダル監督(日本代表監督)、全国ジュニアオリンピック水球競技優勝監督など、3名の方々に顕彰しました。次年度の目標は、出席者40名を超すようにするぞと、心の中で誓いながら終了しました。

茗溪会宮城支部開催の報告



講演会講師 眞田 久氏

(昭和54年筑波大学体育
昭和56年筑波大学修士課程体育)
筑波大学体育専門学群長・教授

〈筑波大学 眞田 久先生の講演〉

茗溪会宮城支部には、東京文理科大学・東京教育大学・筑波大学を卒業し、現在宮城県内に住所または職場がある方々を中心に、350名余りの会員が登録されています。

しかし、例年総会並びに懇親会への参加者数が、地域組織等の全会員の1割程度と伸び悩み、同時に参加メンバーの顔ぶれが例年変化しないという課題を抱えています。

した。そこで今年度は、総会参加メンバーの拡大と活動の活性化もかねて、茗溪会本部より支援を受け、初の試みとして支部主催の講演会を実施しました。講師は筑波大学体育専門学群長・教授の眞田久先生です。

講演会は、40名弱の支部会員を中心とした聴衆を迎え、「2020東京大会と筑波大学」というテーマで、1時間余りの講演時間で実施いたしました。

眞田先生には、内容を次の四つの項目に分けて講演を頂きました。(1)現在の体育専門学群 (2)3回の東京招致とTSUKUBA (3)2020東京大会への展望 (4)つくば国際スポーツアカデミーです。

講演は、大好評でした。終了後には早速質問も出て、興味関心の高さを感じることができました。眞田先生には、心より感謝申し上げます。

〈地域組織等の活性化と総会参加者の増加のための取り組み〉

総会への参加者数の減少と、参加メンバーの固定化は、宮城地域だけに限ったことではないと思われます。価値観の多様化と、個人ベースでの行動の割合が増えた現代では、組織のしがらみを嫌ったり、同窓会という組織での活動に意義を見いだせないということもあるのかも知れません。しかし、近年の宮城での総会では、若干ではあります。初めて会に参加する会員や若手の会員の出席参加が増えつつあります。

若手が増えた最大の要因は、人的つながり、いわゆるコネと口コミです。東京の事務局でもまだ把握していない卒業したての宮城県内在住の茗溪会会員については、本人に案内状が届いていない場合でも、例えば案内が届いた会員が、職場等で後輩を誘って参加するケースが増えてきています。

こうした活動が少しずつではありますが、若手会員の増加につながっていると受けとめています。

あとは、総会や懇親会に参加した若手会員が、初めて参加した総会や懇親会が「面白かった」「参加してよかった」と思えるような魅力ある総会にしていけることが、これからの課題であると考えています。

また、宮城では、東日本大震災発生後に震災の被害を受けた会員のため、募金を募り、義援金を差しあげました。その際は、援助を受けた会員の皆さまより多大の感謝の言葉を頂きました。宮城県を含む東北地方は、まだ復興最中です。それも踏まえて、今後の活動については様ざまな企画を考えて、充実した活動を実施していきたいと思っています。

宮城支部 庶務担当幹事

佐々木 洋（昭59筑修環境）記

第2回東京都茗溪会開催の報告



講演会講師
山海嘉之氏

（昭和59年筑波大学修士課程理工学）
（昭和62年筑波大学博士課程工学）
筑波大学システム情報系教授

去る11月16日（日）に、第2回の東京都茗溪会（以下、都茗溪会）の総会・講演会・交流会が筑波大学文京キャンパス並びに茗溪会館において70名を超える参加を得て開催されました。

総会は、茗荷谷駅前の教育大跡地に新設された筑波大学文京キャンパスを会場に行われ、渡邊悟副会長（食医同源的会代表）の開会の辞、高橋基之会長（都立目黒高校長）の挨拶に続き、来賓として茗溪会江田昌佑理事長、筑波大学阿江通良副学長からご挨拶があり、江田理事長からは新たに一般社団法人となった茗溪会のミッションや最近の様子についてのお話、阿江副学長からは国内スパーグローバル大学13の中の一つに選ばれ、世界トップクラスを目指すトランスボーダー大学としての筑波大

学の戦略についてお話がありました。「師魂理才の人材」を育てると言う高等師範学校校長嘉納治五郎先生が英語や独語をも話された国際人としての見識を持って人材育成を進めてこられたことを継承しようとお話でした。

記念講演

「ロボットスーツHALが創る未来」について、筑波大学システム情報系教授山海嘉之先生の講演が行われました。

山海先生が開発された「ロボットスーツHAL」は、着用者の意志を読み取り自律的に動く着用ロボットです。重介護の方がHALを着用してリハビリをすると、例えば歩けなかった人が数か月で階段を登れるようになるなど機能の改善が見られます。HALがリハビリと介護を支援してくれ、「重介護ゼロ社会」の実現につながるものといえます。2050年には我が国の高齢者は65%になり、本格的な「老々介護の時代」がやってくるからです。さらに、先生は「開発には原理の理解が大切で、創造には原理と原理の組み合わせが必要である」と力説されました。

交流会

交流会は、会場を茗溪会館に移し、山海先生のご発声による乾杯、浅井一郎（有）ティーエーオー企画代表取締役）会計の司会で和やかに進行しました。続いて若手会員の紹介。87年卒の大屋佳子さんからは現在、学研の教室事業で頑張っているという自己紹介があり、教育界より実業界で活躍している卒業生が多くなっていることは、やはり筑波大学の特徴が表れてきているようです。そして終わりには、この歌を作曲した飯島睦子監事（大田区立安方中学校長）と混声合唱団OBによる本格的合唱で筑波大学学生歌「常陸野の」が紹介されました。最後に、渡邊副会長のリードによる「宣揚歌」が高らかに歌われ閉会いたしました。

徳田安伸 事務局長（都立園芸高校長）記

註・本稿は紙面の都合上、季刊誌「茗溪」編集部によって要約しました。ご了承ください。

追悼録（敬称略）

中村 良平 〒399-4117 鈴木 勲 〒121-0813 中澤 一男 〒010-0851 高橋 英夫 〒270-1158 野尻 憲治 〒910-0003 辻井 禎 〒519-0153 川口 玲雄 〒177-0053 島谷 勲 〒060-0041 廣田 修一 〒205-0014	昭16農教 26・7・24 駒ヶ根市赤穂9335 昭19大化 25・11・3 足立区竹の塚3-3-2 昭20体専 26・10・11 秋田市手形字山崎52-4 昭22体 26・10・1 我孫子市船戸2-5-53 昭22農教 26・10・25 福井市松本4-5-8 昭23大動 26・3・20 亀山市西町367-1 昭23文二 26・9・1 練馬区関町南3-15-7 昭24体 26・10・19 札幌市中央区大通東10-15-48-1103 昭24農教 26・10・2 羽村市羽東1-27-29	長女 中村須寿江 二男 鈴木 篤 妻 中澤 典子 妻 高橋 邦子 長男 野尻 雅彦 長男 辻井 裕 妻 川口 俊子 長女 八木 千絵 長男 廣田 修央
---	--	---

逝去会員氏名・卒年科・逝去年月日・遺族住所・氏名

平田 和彦 〒270-0805 大淵 正雄 〒502-0858 武藤 盛治 〒371-0805 曾根 丹治 〒242-0006 村上 文雄 〒207-0004 末次 孝仁 〒839-0863 武藤 勲 〒880-0801 福田 宏茂 〒939-2326	昭25理一 26・10・13 船橋市二和東4-3-3 昭26体 26・8・28 岐阜市下土居1-1-14 昭26農教 26・4・5 前橋市南町4-32-28 昭26農教 26・8・9 大和市南林間8-14-5 昭29教大数 25・10・18 東大和市清水5-1003-2 昭36教大農 25・12・28 久留米市国分町858-5 昭40教大農工 26・12・11 宮崎市老松1-4-35 昭55筑一自 26・8・30 富山市八尾町岩屋38	妻 平田 和栄 妻 大淵 直子 妻 武藤 君子 妻 曾根美代子 妻 村上 泰子 妻 末次 恵子 養女 武藤 基子 妻 福田 里恵
---	--	---

茗溪会の顕彰《茗溪会賞》

本年度の茗溪会顕彰《茗溪会賞》は、11月26日(木)に筑波大学長永田恭介氏のご臨席のもと、同大会館マルチメディアルームで顕彰式と祝賀会を行いました。顕彰式等の会場をこれまでの東京・茗溪会館から初めて筑波大学大会館に移したのは、母校・筑波大学の同窓会としての性格をより一層明確にすることと出席者の方がたに開かれた筑波大学の雰囲気を経験していただくということなのです。

茗溪会は、一般社会人の社会貢献活動・人材育成活動や筑波大学大学院生の社会貢献活動及び同芸術学群の学生・大学院生の優れた作品を顕彰しています。今回は、一般社会人を対象とする顕彰で、茗溪会顕彰選考委員会により、団体5件、個人6件が選考され、江田昌佑理事長の承認を得て決定しました。顕彰式では、江田理事長がそれぞれの功績を記してある茗溪会賞を読み上げ、顕彰しました。

祝賀会では、受賞者を含む出席者お一人ずつから日頃の社会貢献活動についてスピーチをいただくなど交流を深めました。

NPO法人「バイオライフ」

（代表 塩川 富士夫） 茨城県

NPO法人「バイオライフ」は、地域でのエネルギー循環を考え、龍ヶ崎の耕作放棄地で栽培した菜種で「地あぶら」を作り、その油粕は家畜の飼料として再利用するなど、地域の衣食住とエネルギーを自分達で作りたいと活動している。

NPO法人「華の幹」

（代表 飯塚 洋子） 茨城県

NPO法人「華の幹（はなのき）」は、築百年の古民家を再生して地域活性化の拠点にしようと、手芸等のイベント、地区の伝統行事、能面展の開催、廃材による手作り能舞台の立ち上げなどを通して、人々の地域における交流の場を生み出している。

T-ACT企画「Tsukuba for 3.11」

（代表学生 水落 裕樹） 茨城県

学生団体「Tsukuba for 3.11」は、大災害への対応についての様々な課題を解消する活動から出発し、現在、つくば市等に拠点を置き、がれき等の撤去作業や避難者を招いての芋煮会、ボランティアの受入れ・送込み体制の構築などの活動を推進している。

高知市立高知商業高等学校生徒会

（代表生徒 細木 優夏） 高知県

永年にわたり生徒会が中心になって、ラオスに学校を贈るという国際ボランティア活動が続け、これまでに7校の学校建設を実現してきた。また、高校生のアイデアにより、現地の材料を使ってエコバッグや扇子などを商品化し、国際交流を進展させている。

菊池 豊

東京都

菊池さんは、「義足は、現在、金属製やカーボン製が主流であり、木製の義足は、木や関節に使う金具の切削と

接合、ボルトの微妙な固定具合など経験と勘がものをいう」と言う。そして、使い慣れた人が使いたいという限りこれからも木製の義足を作り続けたいと考えている。

中谷 奈津子

神奈川県

中谷さんは、東日本大震災直後から被災地を訪れ、童謡、民話などを基にした創作紙芝居「ご当地紙芝居」を上演し、心の復興を後押しする活動を続けている。本年5月には、「被災地の今」を届ける活動報告展を地元鎌倉で開くなど活動の幅を広げている。

問屋 正勝

神奈川県

問屋さんは、スペイン語医療通訳スタッフとして、これまで自治体の要請も含め約500回の医療通訳のボランティア活動を行ってきたっており、患者の心に配慮する工夫、気遣い等も重要な要素であるとして積極的に医療通訳活動に従事している。

阿部 渚

東京都

阿部さんは、モンゴルの伝統楽器・馬頭琴の国際フェスティバルにおいて優秀賞を受賞し世界で演奏活動を続けるとともに、国内の病院や学校、各種施設等で慰問活動を継続している。数年前からモンゴルの音楽教育の充実を図る活動にも努めている。

芳賀 和夫

茨城県

子供達のために「易しいサイエンス」等の科学教育活動や県内各地で生きた科学を体験させる自然観察やフィールドワークなどのプログラムを展開している。また、参加する子供達とスタッフ諸氏にも刺激的な「生きた科学」の啓蒙活動が続けている。

藤原 啓乃

東京都

藤原さんは、様々な生活環境で暮らしているお年寄りが、地域で孤立することなく安心して自立した生活が継続できるよう、区役所の協力も得て、映画会、相談会などを開催している。日常的なお年寄り達への見守り活動は、着実に根を下ろし、広がりを見せている。

受賞者紹介

（順不同・敬称略）

..... 団体

作新学院ボランティア部

（代表生徒 駒田 祥史） 栃木県

作新学院ボランティア部は、募金活動や高齢者等の自宅を訪れ、窓拭きなどを行ってきた。東日本大震災後には、被災地を訪れ仮設住宅の窓拭きを行うとともに、作新学院の園児・児童・生徒が被災者を励ますメッセージ入りの雑巾約五千枚を贈り感謝されている。

筑波大学は今

学長表敬続々！

この秋も本学のスポーツ選手たちが大活躍し、優勝旗を持った誇らしげな選手たちが、続々と学長室へ報告に訪れました。史上最年少で剣道日本一に輝いた竹ノ内佑也選手。第41回全日本大学選手権大会男子ダブルスカル優勝および2014アジアジュニア選手権大会女子ダブルスカル優勝の漕艇部。第83回日本学生陸上競技対校選手権大会で、6年連続24回目の総合優勝した陸上競技部女子。第65回全日本学生バドミントン選手権大会優勝のバドミントン部女子。第66回全日本大学バスケットボール選手権大会優勝の男子バスケットボール部。学長や副学長は、選手一人一人に、ねぎらいと今後の活躍を期待する言葉をかけました。

この2つの大学は、学外に本学のキャンパスを創出し、学内に海外組織のキャンパスを創成する「キャンパス・イン・キャンパス」構想の実現に向けて、科目ジョークボックスモデル構築を協働で進める主要大学です。

●全日本剣道選手権で竹ノ内佑也史上最年少優勝

剣道日本一を決める第62回全日本剣道選手権大会で、本学の竹ノ内佑也選手（体育専門学群3年）が初出場で初優勝を果たしました。21歳5ヶ月での優勝は史上最年少で、大学生の優勝も43年ぶりという快挙です。



少で、大学生の優勝も43年ぶりという快挙です。決勝戦では、國友鍊太郎四段（福岡県警）に1本も奪われることなく、得意の面を2本決めました。

●男子バスケットボール部念願のインカレ優勝！

第66回全日本大学バスケットボール選手権大会で、男子バスケットボール部が、筑波大学開学以来初の優勝を果たしました（前身の東京教育大学時代を含めると61年ぶり2度目）。

なお、最優秀選手賞にはキャプテンの笹山貴哉選手（体育専門学群4年）、優秀選手賞には坂東拓（同4年）、杉浦佑成（同1年）が選ばれました。



写真提供：O. TAKEDA

モニュメント除幕式を举行

茨城県信用組合会長の幡谷祐一さんが寄贈したモニュメントの除幕式が10月7日に行われ、永田恭介学長らが出席しました。

この除幕式は、平成22年に全国最高齢で生命環境科学研究科博士課程を修了し、博士（学術）を取得された幡谷さんから、本学学生への激励と本学に対する大きな期待を込め、モニュメントが寄贈されたことに伴い行われたものです。

モニュメントは、柴田良貴教授（芸術系 日展会員）作のブロンズ像「旅へ」と「夜の幕をひらく」および幡谷さん作の漢詩を刻んだ銘板。銘板の書は中村伸夫教授（芸術系 日展会員）によるものです。

このモニュメントは、本学のアカデミックシンボルの一つとして、学間に宿る崇高なる精神性と高揚感を与えるものになると期待されます。



本学と産業技術総合研究所との 合わせ技ファンド設立

本学と産業技術総合研究所は、互いの予算を持ち寄り、公募した共同研究に資金提供する「産総研と筑波大との合わせ技ファンド」を立ち上げました。独創的な研究シーズ発掘からイノベーション創出につながる多数の共同研究が生まれ、教育・研究・地域活性化の促進に寄与することを目指しています。

67課題の応募があつた中から、数理物質系3課題、システム情報系から2課題、医学医療系から2課題、生命環境系から2課題の計9課題が採択されました。それぞれの機関が1,000万ずつ供出、1件あたり222万円を支給します。

三明康郎副学長は、「大学の基礎研究と産総研の最先端の技術を組み合わせることで大きな展開ができる。非常に多くの提案があり力強く思っている」と語りました。

平成26年度筑波大学公開講座 「スポーツ科学の成果を指導・練習に活かそう」

11月7日に、本学の本間三和子教授による「出前公開講座」が咲くやこの花高校（大阪市）で実施されました。本間教授はロサンゼルス五輪のシンクロナイズドスイミングで同メダルを獲得。選手経験を基に、スポーツ科学の研究をしています。当日は「スポーツ科学の知識を指導・練習に活かそう！」をテーマにし、同校でスポーツを重点的に学ぶ「スポーツ系列」の生徒約70人や、付近の高校から集まった教員などが最先端の研究内容や、本間教授の人生訓に聞き入りました。

これまででは、本学のキャンパス内で行われていませんでしたが、本年度から社会貢献や本学の知名度向上などを目的に、9月には佐賀県で剣道教室、10月には福島県で柔道教室を開催し、本学の教員や体育専門学群の学生が地域住民直接指導を行い好評を博し、体育系では今後も、岩手県や宮城県での開催を予定しており、本間教授も「来年度以降も継続的に続けていきたい」と言われています。

文責 季刊誌「茗溪」編集担当

茗溪学園だより

自主的な学習活動を支える図書館

学校における図書館の充実度は、学校が生徒たちの自主的な学習活動をどれくらい大切にしているかが分かる指標である、と言われています。

本校では、建学の理念に掲げた「創造的思考力に富む人材を育てる」ために、課題解決学習や調べ学習を各学年の教科学習や行事に組み込んで、より高い成果をねらっているところですが、生徒一人一人に探究心を育み、自ら学び成長していく能力を養う場としての図書館は、重要な役割を果たしています。そこで今回は、本校の図書館についてご紹介させていただきますと思います。

図書館データ

①スタッフ＝専任・司書教諭2名、非常勤・司書1名、アルバイト（筑波大学大学院生・図書館情報メディア研究科）1名。月曜から土曜まで常に複数での指導態勢がとれるようにしています。



中学1年図書館オリエンテーション：司書の先生に次々に質問する生徒たち



中学2年技術の授業：各自で設定したテーマに沿って個別に調べ学習を進めていく

本校図書館の特徴

- ②蔵書数＝約7万冊。新しい本を年間2千冊以上購入。
- ③年間貸出し冊数＝1万6千～2万冊
- ④開館時間＝始業前の7時45分～午後6時。始業前、昼休み、放課後とも数多くの生徒たちで賑わっています。

複数の専門スタッフを配置しているところが第一の特徴です。高校2年で行う総合学習「個人課題研究」では、全員が論文作成を行います。これらの生徒に対し、論文作成の基礎となる資料の検索方式や入手方法、他の図書館の利用、論文の書き方、プレゼンテーションのノウハウなど、生徒からの様々な相談に応えています。高校2年のほかにも、各学年に配置されている研修活動やレポート作成などのために、生徒たちは気軽に相談にやってきます。

図書館に場所を移して授業を行う教科が幾つもありますが、それらの授業支援や資料提供などで、授業担当教師と司書教諭とが協力して、よりよい授業作りをしています。

入学直後の中学1年生に対し、図書館オリエンテーションが行われます。司書の先生方から直接しかも優しく丁寧に教えてもらえるので、より親しみの湧く図書館という雰囲気醸成され、高い利用率に繋がっています。新聞・雑誌の閲覧とか友人との交流の場としても利用されています。

7万冊の蔵書ですが、絵本から大学生が使うような専門書まで幅広く揃えています。調べものの利用が多いのでレファレンスブック（参考図書）をより充実させるようにしています。洋書も積極的に収集し、海外からの帰国生や留学生ばかりではなく、多くの生徒が外国の書物に触れる機会を作っています。

新聞は日刊紙を10紙、週刊誌を3誌、雑誌（科学、スポーツ、趣味など）を42誌購読し、生徒の多方面の興味関心要望にえています。

個人課題研究の要旨集やさまざまな研修活動の報告集をまとめたコーナーでは、先輩たちが過去に作成した研究レポートや関連資料が揃えられていて、調査・研究がより身近なものと感じられるようになっています。

図書館は、教室から近い2階のアクセスしやすい場所にあります。テーブル席と個人机を配置し、個人学習、グループ学習それぞれの学習形態に応じて使い勝手が良いようにしています。

他に、図書館内には情報端末として、図書検索用コンピュータ、お知らせ掲示用コンピュータ、いつでも自由に使えるコンピュータなど4台を設置して便宜を図っています。

高校ラグビー20回目の全国大会出場

第94回全国高等学校ラグビーフットボール大会茨城県予選を安定した戦いぶりで勝ち上がり、3年連続での全国大会出場を果たしました。1985年第65回大会に初出場してから30年目となる今年ですが、出場回数を20回にまで伸ばしました。

今年も東日本地区の実力校としてBシード校に選ばれました。昨年の大会では、良い結果が残せませんでしたので、今年は2年分の勝利を挙げようと懸命に練習に励んでいます。



4年連続16回目となるライバル清真学園との決勝対戦を42対7で制しての優勝。(平成26年11月9日、水戸・ケーズデンキスタジアム)

◆東京高師 昭和24年卒 理二の会

と き 平成26年10月8日(水)
 ところ 文京区湯島 東京ガーデンパレス
 今年の参加者は7名。近況報告など話し合い、楽しく和やかな会でした。みんな元気。とはいえ、全員86歳以上になった等々を考慮、これを「理二の会」の最終回にすることで合意。名残を惜しみつゝ散会した。写真は前列左から 古村、井下田、伊藤、石橋、後列左から飯村、中園、黒羽 幹事：黒羽、中園、飯村 文責：飯村



◆三六会（昭和36年東京教育大学農学部林学科）

と き 平成26年11月9日(日)
 ところ ホテルグランドヒル市ヶ谷
 現存者23名のうち、17名出席のもと開催、全員後期高齢者ですが全員元気、欠席者6名も体調不良の為ではなく、健康に恵まれたクラスです。桐の葉を合唱して閉会后、靖国神社参拝して会散しました。 幹事：田村正義



◆昭和37年卒 東京教育大学体育学部 クラス会

と き 平成26年10月18日(土)
 ところ ユーハイム千駄ヶ谷店
 私達は昭和37(1962)年に卒業し、無二(62)会と名乗っております。総勢58名が参加し、童心に返り、命の洗濯ができました。まだ卒業して52年、私達の夢は東京オリンピックを観戦しながら、「同志道友」の会・無二会を開くことです。 世話人：片倉、石橋、杉山、河本



◆37農経会（昭和37年度東京大学大農村経済学科卒）

と き 平成26年11月1日(土)
 ところ 農林中央金庫目黒分室
 全員後期高齢者前後になった今回、現存者18名中半分の9名出席のもと、楽しく昔を語り、酒盛りも盛大でした。氏名は順不同で前列左から松岡、高野、新倉、湯沢、小林、後列は赤石、前川、伊東、脇坂です。出席者全員、少しも年を感じないほど元気で、最後に「桐の葉」を歌って散会。



◆東茗会

と き 平成26年11月23日(日)
 ところ 「北海道」池袋西口店
 東京高等師範学校、東京文理科大学、東京教育大学、筑波大学の出身者で、主に東洋史を専攻し、都内の高校で世界史を教えている現役の教員・OBの親睦会です。年に1回、教育大出身者には懐かしい池袋で会合を開いています。参加者は30代から70代まで多彩ですが、学生時代の思い出話から昨今の高校の様子などで話が盛り上がり、いつも話題に困らないのが特徴です。 会長：浦部利明



著書紹介

平成二十六年秋の叙勲

おめでとうございます (敬称略)

旭日中綬章

小林 守 44教大日

(栃木)

瑞宝中綬章

平山 光衛 28大地 33院修地
秋山 怜 34教大英 40院修英

(栃木)
(埼玉)

瑞宝小綬章

宮崎 幹夫 39教大体

(宮城)

太田 陽子 27大地 35院博地

毛利陽太郎 34教大数 36院修数

(東京)
(山梨)

藤本 文朗 41院博数 34教大特教

(京都)

小川 清彦 32教大彫

(奈良)

渡辺 悦男 33教大健

(島根)

山本 和之 33教大英 35院修英

(山口)

小林 貞一 34教大数 36院修数

(高知)

秋吉 嘉範 32教大体

(福岡)

副島 正光 33教大倫 38院修倫

(佐賀)

染谷 信洋 43教大言

(茨城)

岩崎 修 75教大農経

(栃木)

小畔 東 41教大体

(東京)

小林 俊徳 42教大総農

(東京)

佐々木正興 70教大

(愛媛)

お願い 瑞宝小綬章以下については全国紙に掲載されませんので地域組織、ご本人から連絡があった方のみを掲載しています。記載もれにお気付きの方は事務局までお知らせください。

数詞…その誕生と変遷 (改訂版)

著者 小林功長(かつなが) (昭和26年東京文理大理学部物理学科卒)
本の大きさ 四六版、158ページ 1,000円 (税別)
出版社 大芸社

この本は、数詞の誕生と変遷および数詞の歴史という視点からの日本語の誕生を論じたものです。

数詞の誕生では、さまざまな数詞の比較分析という方法で、「1と2の時代」「3と4の壁」「指の働きと10までの数」「10進20進60進数」等を述べています。変遷では、ヨーロッパおよびインド北部の数詞中心に、異なる言語集団が接触するときに起こる数詞の変化を述べています。

日本語の形成については、日本語が「いち、に、さん——」「ひとつ、ふたつ、みつ——」の2種類の数詞を持っていることをもとにその成立を論じています。

著書紹介の掲載について

季刊誌「茗溪」には、茗溪会員の皆さまの著書を紹介しております。先輩・後輩・友人などの著書を、25字×18行程度の紹介文にして茗溪会事務局へ送ってください。

なお、書名、著者およびご本人の卒業年度、学部・学科・学群・学類、本の大きさ、ページ数、価格、発行所等を付記して下さい。



ベトナムと日本の絆

著者 藤本文朗
出版社 新日本出版 2010年 1,000円

ベトナム戦争(1960～1975年)でアメリカが撒いた枯れ葉剤(ダイオキシンを含む)によって、ベトナムで今なお障害者が生まれていると考えられる。

その中で日本でもよく知られているベトナムとドク(0.8才時 結合双生児 後分離手術)を支援する会を30年近くやってきたことを通して、戦争と障害児、国際交流について語る。

平成二十六年春の叙勲

おめでとうございます (敬称略)

大友 鍊一 38教大地鉦

(福島)

広 報

地域組織等の総会・講演会等の実施状況

本年度の地域組織の総会・講演会等の実施状況は次の通りです。(理事会から理事を派遣したものについてまとめました)

大阪(6/7) 筑波大学(6/10) 奈良(6/21) 長野(6/22)
栃木(6/28) 群馬(6/29) 神奈川(7/5) 福岡(7/5)
静岡(7/6) 愛媛(7/6) 千葉(7/6) 三重(7/6)
富山(7/6) 愛知(7/6) 山梨(7/26) 東京(11/16)
宮城(11/22) 山梨(11/29)

地域組織等への集金費を助成

本会では従来は地域組織等で集金した会費については10%を地域組織に還元していましたが、今年度からは地域組織で集金したものの以外も10%を助成することになりました。各地域組織から振込先を連絡いただき、連絡のない3つの地域組織を除いて、すべて助成致しました。

筑波地区で公開講座開催

9月27日(土)に藤原保明先生の「英語のはなし 第10弾」が『英語をさかのぼる』と題して、筑波学都資金財団の筑波研修センターで約30名の参加で開催されました。60年ほど前の「マンデヴィル旅行記」を、当時の英語で読みながら「マンデヴィル旅行記」の英語の特徴などをお話いただきました。

11月29日(土)には、本会理事で水戸植物公園長の西川綾子先生の「年末年始に楽しむ 冬の寄せ植え」が40名ほどが参加して開催されました。シクラメンやクリスマスローズについてのお話の後で、寄せ植えの実習が行われ参加者から「楽しかった」「大いに参考になった」との声が寄せられました。

第13回 茗溪会賞 顕彰式を筑波で開催

従来、東京の「茗溪会館」で開催してきました「茗溪会賞」の顕彰式を11月26日に筑波大学の大学会館で開催致しました。団体5件、個人6件の顕彰を受けた皆さまと理事等の45名が出席しました。

卒業予定の学生の就職活動にご支援を

来年春、再来年春に就職予定の筑波大学生に、皆さまのご支援・ご指導をお願い致します。

(問い合わせ・連絡先) 筑波大学学生部就職課

企業・団体関係 電話 029-853-6091

教員・公務員関係 電話 029-853-2249

第30回 教職受験対策研修会

教員採用試験を受験する、筑波大学の学生のために、今年度も、講習会を本会と筑波学都資金財団の共催で左記の要領で開催致します。

日時 平成27年3月9日(月)～11日(水)

会場 筑波学都資金財団 筑波研修センター

受講料 7,000円のところ

茗溪会が2,000円補助

表紙の言葉―表紙デザイン 茗溪会副理事長 西川 潔

新年号に相応しい構内風景を探したが、華やきの色はすくない。構内を移動する学生も気のせいかまばらである。しかし、吹き寄せられた枯れ葉の中に秋の名残をみたり、カメラを構える背に、ポツリと木の実が落ちる音を聞く。冬ならではの体験である。写真は学内を1周するループ道路の一部、ケヤキ並木である。ケヤキは芽吹きから新緑にかけてと、うつすら赤みを帯びる落葉直前が見頃である。そして冬。朝もやの中に凜として立つケヤキは、太い幹から細い枝先まで淀みなく張りをもつ。花こそ見せないが、輪廻を強く感じさせる樹である。遠くに見える自転車は、一の矢宿舎から大学中央に向かう外国人であろう。体型からそれと分かる。

編集後記

・特集は「教育学者・清水一彦さん」と考える日本の教育」の第二回として、筑波大学副学長の阿江通良さんと筑波大学教授の藤田晃之さんの三人で「大学入試制度はどう改革すべきか」について話し合っていたきました。次号・第三回のテーマは、清水一彦さんと筑波大学教授の徳永保さん、筑波大学教授の藤田晃之さんの三人で「現代社会はどのような教師を求めているのか」についてです。ご期待下さい。

・1081号(平成26年春号)から始めた「茗溪東西南北」には多数原稿が寄せられています。本号ではスペースを広げて、京都・宮城・東京の地域組織の活動の様子を掲載しました。

お願い

・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡下さい。
・年会費のお振込みは、早めにお願いたします。

平成27年1月15日発行

発行所 一般社団法人 茗溪会

茗溪会事務局・大塚事務所

TEL 012-東京都文京区大塚 一五二二三

TEL 03-三三九四一〇一三六

FAX 03-三三九四一七六七四

E-mail info@meikei.or.jp

URL http://www.meikei.or.jp

郵便振替記号番号 00150-24977

筑波事務所

305-8577 つくば市天王台 一〇一

筑波大学・大学会館内

TEL 029-八五〇一〇四四

FAX 029-八五〇一〇四五

E-mail tsujimu@meikei.or.jp

印刷所 東京都文京区関口 一三九一〇

山浦印刷株式会社



Service Safety Sincerity
あなたのそばに。セキショウグループ。

SEKISHO

Energy for your Life

当社は「一般財団法人 関彰育英会」を通して、筑波大学大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の支給を行っております。



関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹

つくば本部／茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

若溪会担当：執行役員秘書室長 岡本 俊一
(昭和56年 第一学群 社会学類 卒業)

<http://www.sekisho.co.jp/>



安全に、快適に、正確に

大曾根タクシー株式会社

取締役社長 塚本 一也

(平成3年環境科学研究科修了)

☆24時間営業

☆お迎え料金無料

☆カード利用 OK!

☆貸切バス事業者より

安全性評価認定(★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑3丁目19-4

TEL 029-864-0301

FAX 029-864-4727

メールアドレス <http://www.taxi.e-tsukuba.jp>

フリーダイヤル 0120-000-302

各営業所に通じます

日本酒 本格焼酎 来福 醸造元
来福酒蔵株式会社

日本酒 来福
真向勝負



純米吟醸
筑波大学の酒
桐の花酵母を使った

桐の華

ご注文は

〒300-4546

茨城県筑西市村田 1626

TEL 0296(52)2448

FAX 0296(52)6448

e-mail/

fujimura@raifuku.co.jp



smart
wellness
CITY スマートウエルネスシティ

健康づくりは
「まち」
づくりから

つくばウエルネスリサーチは
高齢化が進んでも、そこに暮らすことで
健康になれる「まち」

“Smart Wellness City”の
実現を支援しています!

※「健康」=身体面の健康だけでなく、人々が生きがいを感じ
安心安全で豊かな生活を送れること



株式会社つくばウエルネスリサーチ
〒305-0817 茨城県つくば市研究学園D9街区9画地
研究学園スクエアビル5F
TEL: 029-849-5800 FAX: 029-849-5800

Smart Wellness City 首長研究会事務局

近日刊行予定

ご注文は最寄りの書店または丸善出版へ

TEL 03 (3512) 3256

『筑波山から学ぶ—「とき」を想像・創造する』

前川 啓治 編

A5判・並製2,900円＋税 ISBN 978-4-904074-33-6



本書では、筑波山の歴史、民俗、経済、地域づくりについて具体的に描いています。神代から現代までの筑波山の存在と人々の思いによって形作られた「環筑波山文化圏」という視点で、筑波山の来し方と行く末を想像・創造してみたいかがでしよう。

『DEAフレックス総合評価法 社会システム分析への適用』

橋本 昭洋 著

A5判・並製2,900円＋税 ISBN978-4-904074-34-3



公共機関や民間企業の効率性の分析評価のみならず社会システム分析全般にも有効な DEA (包絡分析) のガイドブックです。専門研究の成果を反映しながら、基本的な考え、評価手法、その適用の仕方を、身近な事例を用いて平易に解説しています。

一般社団法人 食医同源之会

〒124-0024 東京都葛飾区新小岩1-43-6
オリムピアビル 6 F
TEL&FAX 03-3654-2410
代表理事 渡邊 悟 (56筑二農 62筑院博農)
http://syokuidougen.main.jp

堀内法律事務所

〒305-0025 つくば市花室1011番地
TEL 029(857)4411 FAX 029(857)4412
所長・弁護士 堀内 昭三 (35教大法政)

相続・法人設立・ビザ etc...

行政書士 高谷真一事務所

〒300-0826 土浦市小松ヶ丘町3番15号
TEL&FAX 029-821-8177
代表 高谷 真一 (平20筑修ビジ)

海城中学・高等学校

〒169-0072 東京都新宿区大久保3-6-1
電話 03-3209-5880

校長 水谷 弘 (昭40教大数)

経営・労務・年金etc.コンサルタント
福岡経営労務事務所

〒125-0042 葛飾区金町3-27-3
TEL 047(361)2618 FAX 047(361)2643
所長 福岡 一雄 (32教大法政)

聖徳大学 文学部

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550
電話 047-365-1111(代表)
E-mail: akifuji@seitoku.ac.jp
学部長 藤原 保明 (昭48教修英 平3筑博文言)

株東京科学光芸社
茗溪会館写真スタジオ

〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23
茗溪会館3階
TEL 03-3945-9390 FAX 03-3945-9392

株式会社 十和観光
代表取締役 井坂 信洋
TEL 0297(52)1221 FAX 0297(52)1220
E-mail: travel@juwa.com

スポーツ選手、文化人のマネジメント&キャスティング
トレーニングジム、鍼灸整骨院、デイサービスの運営

株式会社 スポーツカンパニージャパン

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-17-8 京ビル5F
TEL 072-452-0030 http://tachiryugym.com
代表取締役 藤田 文武 (筑波大体育 2004卒)



永井建設株式会社

〒273-0115 千葉県鎌ケ谷市東道野辺3-1-7
電話 047(443)7908 FAX 047(443)7940
営業部長 高野 力 (昭48教大木工)

印刷・製本までトータルに対応

株式会社 ケエスアイ

東京営業所 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1-6-7
九段NIビル2F
TEL 03-5357-1668 FAX 03-5357-1669



株式会社 長谷工 コーポレーション

〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号
電話 03(3456)1578
執行役員 植岡 祥之 (昭57筑社工)

筑波での宿泊・研修に—

ご家族で、お仲間で

最大収容180名、お一人3,600円から／(消費税率引上後、料金改訂予定)
茗溪会員とご家族に割引あり
研修セミナー・サークル発表会・各種会議・学習合宿・部活動合宿に
シングル145室 ツイン5室 和室5室／研修室2室 (120・40名)
和室も研修室として利用可 (20畳、10畳)
館内食堂《こうせい》でパーティ・懇親会等 (数名から80名まで)

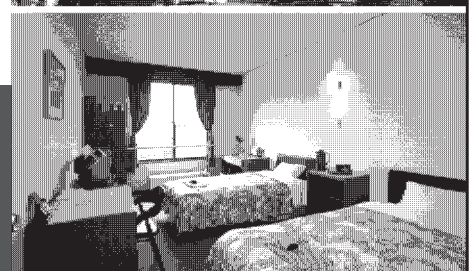
アクセス

秋葉原駅からつくばエクスプレスで45分「つくば駅」下車
●バス／「筑波大学循環」3つ目「筑波メディカルセンター前」下車
徒歩8分 ●つくば駅からタクシー／5分

一般財団法人 筑波学都資金財団

筑波研修センター

〒305-0005 茨城県つくば市天久保1-13-5
TEL 029-851-5152 / FAX 029-851-8886
http://www.meikei.or.jp/~center e-mail:center@meikei.or.jp



(株)ブライダルは
筑波大学同窓会会員の
皆様の「結婚」を応援します。



結婚

37年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも『結婚』という形で社会に貢献できる企業を目指しており、特に筑波大同窓会の皆様には平成17年より「筑波大コース」を設け、多くの方にご利用頂いております。この「茗溪」を見たとおっしゃってくだされば、茗溪会の皆様はもとより、ご家族の方でも特別に、「結婚」を特典付(登録料50%OFF)にてお世話させていただきます。

筑波大コース 登録料
50%OFF

ブライダルコース
¥226,800 ▶ ¥210,600 etc.

エクセレントコース
¥388,800 ▶ ¥372,600 etc.

価格は登録料・会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

株式会社ブライダルの詳しい情報はホームページをご覧ください。
詳しくは(株)ブライダルと検索してください。

(株)ブライダル

検索

お問い合わせ
(月曜定休)



0120-415-412

ホームページ
携帯サイト

<http://www.bridal-vip.co.jp>
<http://www.bridal-vip.net/m/>



右のQRコードにて携帯サイトにアクセスできます。(一部対応しない機種がございます。)



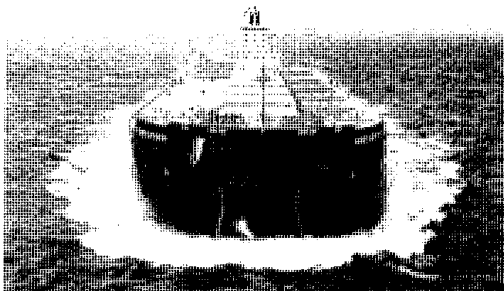
37年の実績
株式会社

ブライダル

東京本社
Network

〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F
東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

Ships 21 Co., Ltd.
shipbrokers



外航大型貨物船・タンカー等の備船・売買の仲介
海運コンサルタント

世界中のマーケットと直結して日本のそして世界の
海運業に貢献すべく。 体力・気力があり、英語が
堪能な若い方、興味があったら来てどんな仕事か見
てみませんか。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-4-10 仙石山アートハウス

TEL: 03-3438-2351 shipsuz@ships21.co.jp

代表: 鈴木 進 1973年東京教育大学理学部動物学教室卒

現: 筑波大学ラグビー部OB会、副会長



桜美林大学
J. F. Oberlin University

リベラルアーツ学群 / 健康福祉学群
ビジネスマネジメント学群 / 芸術文化学群

桜美林学園 理事長・学園長 佐藤 東洋士
入試広報センター相談役 川田 孝一 (昭39 教大総農)

【お問合せ先】

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758

桜美林大学インフォメーションセンター

Tel.042-797-1583 E-mail:info-ctr@obirin.ac.jp



東京ビジネスホテル 茗溪会東京宿泊所

茗溪会会員割引料金 (税サ込)

シングルB (バス・トイレ共同)

¥ 6,500→平日¥ 4,800 休前日¥ 5,800

シングルA (バス・トイレ付)

¥ 8,200→平日¥ 5,950 休前日¥ 6,950

ツイン (バス・トイレ付)

¥13,800→平日¥ 9,800 休前日¥12,800

朝食バイキング ¥ 1,050→¥ 760

大浴場時間 : 6:30~9:00 17:00~01:00



東京都新宿区新宿6-3-2

TEL 03 (3356) 4605

FAX 03 (3356) 4606

地下鉄丸ノ内線	新宿御苑前駅	1番出口	} より徒歩7分
都営新宿線	新宿三丁目駅	C7出口	
地下鉄副都心線	新宿三丁目駅	E2出口	

JR新宿駅より車5分

茗溪会館写真スタジオ

ご婚礼・成人式・七五三・ご入学卒業写真・証明写真
家族写真・集合写真・出張撮影等・卒業アルバム作成



〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 茗溪会館
(株)東京科学光芸社 3階

TEL 03-3945-9390 FAX 03-3945-9392

茗溪学園中学校高等学校

茗溪学園は1979年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

理事長 西野虎之介 (28農経)

校長 柴田 淳 (52体 56院修体)

〒305-8502 つくば市稲荷前1-1

<http://www.meikei.ac.jp> TEL 029(851)6611

- ◆寮のある学校です
- ◆Study Skillsを評価し伸ばす学校です
- ◆海外大学進学も選択肢にできます
- ◆部活動が盛んな文武両道の学校です



SSH活動報告会

「SS研究・個人課題研究発表会」
(後援：筑波大学)開催のお知らせ

期日：平成27年1月30日(金)

10:00~14:00

会場：筑波大学・大会館

内容：本校高校2年生SS研究および個人課題研究(優秀研究者)口頭発表ほかに、ポスター発表、その他のSSH活動成果報告

一般公開いたします

お問い合わせは、下記e-mailアドレスへ



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」

e-mail kouhou@meikei.ac.jp (見学等) entry@meikei.ac.jp (入試等)